

Goto Cyuoh Hospital Proceedings

五島中央病院紀要

第 26 号



長崎県五島中央病院

目 次

1. 巻 頭 言 院長 竹島 史直	1
2. 令和 5 年度診療科別業績集他	3
1) 内科	4
2) 外科	6
3) オープンカンファレンス	7
3. 2023 年内科入院患者数	8
4. 2023 年精神科新来患者統計	10
5. 令和 5 年度診療業務実績	12
6. 各診療科別年間手術症例数	14
7. 救急患者搬送一覧	16
8. 令和 5 年度抗菌剤（注射薬）及び主要消毒薬使用概況	18
9. 当院の微生物検査の動向	25
10. 投稿規定	32

巻頭言

令和2年4月より病院長として赴任致しました竹島史直と申します。赴任以来早くも5年が過ぎ去ろうとしています。今年は、当院における大きな変革の年となりました。当院の許可病床数は6病棟304床（一般230床、精神60床、結核10床、感染症4床）ですが、急性期病棟を1病棟閉鎖（40床）し、5病棟（264床）へ削減する決断をいたしました。

長崎県で初の新型コロナウイルス感染症患者が確認されたのは、令和2年3月14日でした。赴任の2週間前であり、強い緊張を感じたことを今でも覚えています。当院では、令和2年8月より5階北病棟をコロナ患者専用の病棟として運用開始しました。その後、将来的な人口減に伴う患者数の減少や、効率的な病棟運営を念頭に置き、令和3年4月より同病棟を休棟（40床）とし、コロナ患者は結核病床で受け入れる体制としました。看護師数の不足などの理由により、令和5年1月からは3階南病棟機能（50床）を一旦5階北病棟へ移行し（3階南病棟50床は休棟）、一般病棟40床、結核病床をコロナ病床10床として運営することと変更しました。令和5年5月8日、本ウイルス感染症が5類に再分類されてからは、すべての病棟でコロナ患者を診る体制へと移行し、令和6年1月には、5階北病棟へ移行していた3階南病棟機能を元に戻し（5階北病棟40床は休棟）現在に至ります。この間（令和3年4月以降）、5階北病棟（40床）、あるいは3階南病棟（50床）を休棟して、病床削減が地域に及ぼす影響を確認しつつ病院運営を行ってききましたが、病床削減に伴う入院医療への影響は見られませんでした。一方、地域医療構想において五島地域の急性期病床は61床過剰であることが示されています。休棟を継続した期間、当院の病床利用率はむしろ低下傾向であり、人口の将来推計も考慮すると今後も継続する見込みです。

このような状況、将来予想を鑑み、今回正式に5階北病棟40床を削減する方針といたしました。すでに、令和6年10月15日五島区域地域医療構想調整会議にて承認を頂きましたので、令和7年度より5階北病棟の有効利用のための改修工事に着手する予定です。その利用案として、夜勤看護師の休憩室、台風等災害時の帰宅困難職員や患者家族の宿泊施設、シミュレーター室、入退院支援室、医療安全管理室、感染管理室など様々な案が挙げられています。

昨年を振り返りますと、多くの医師の動きがあった1年でした。4月、6月の定例の異動時期に、内科医師7名、外科医師2名、整形外科医師2名、産婦人科医師2名、小児科医師2名、精神神経科医師1名、泌尿器科医師1名、耳鼻咽喉科医師1名を新しく迎えました。実に医局の半数以上の医師が入れ替わる大異動でした。10月にも2名の医師異動がありました。安定した病院運営のためには、できるだけ多くの医師に長期間当院での勤務を続けていただくのが良いのですが、各診療科の大学医局や個人のそれぞれの事情が重なり、このような状況となりました。しかしながら、各人の努力やスタッフの協力により、大きな混乱もなく大異動は収まったように思います。そのような中で、耳鼻咽喉科医師1名、外科医師1名、小児科医師1名は、増員となります。耳鼻咽喉科の常勤医は、長年当院不在であり、その獲得は、私の宿願でもありました。長崎大学耳鼻咽喉科医局のご協力により、ようやく夢がかない、島民の皆様にも喜んでいただいているものと思います。また、今年から県の養成医も当院へ派遣していただけるようになり、当院で

最も手術件数が伸びている外科とこれまではお一人で診療されていた小児科は1名ずつの増員となりました。特に小児科は、これまでは福江島内に2名のみでしたので、安定した小児診療に貢献できると思います。また今年度も5名の初期研修医が当院で研修中であり、来年度からは増員により4名の研修が内定しています。今後も研修指導責任者の今西大介先生を中心に新しい力を育てていきたいと思っています。

さて、今年の干支は乙巳（きのとみ）にあたります。乙は五行の木に属し、柔軟でしなやかな木を象徴すると言われていました。巳は神様の使いとして大切にされてきた生き物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされているそうです。再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく、そのような素晴らしい健康な一年になることをお祈り申し上げます。これからも五島市民の皆様や地域医療機関の先生方のご要望に応えられるように微力ながら精一杯頑張ってまいりますので、今後のご支援をどうぞよろしく願いいたします。

院 長 竹 島 史 直

五島中央病院業績集

令和5年度業績集

1. 内科

【著書】

1. 五十嵐総一（著者）、竹島史直（監修）

いま、IBD で不安なあなたに贈る本 みらいパブリッシング 2023年7月24日発行

【学会発表】

1. 第61回日本糖尿病学会九州地方会（2023.12.1-2 熊本県熊本市）

へき地における医療 MaaS を用いた遠隔糖尿病専門外来

野中文陽、江頭清美、秋吉響子、橋本和子、宮田潤、山内えり、岩田将吾、尾崎美千恵、津渡俊和、竹島史直、前田隆浩

2. 第61回日本糖尿病学会九州地方会（2023.12.1-2 熊本県熊本市）

五島市モバイルクリニックにおける管理栄養士不在へき地診療所でのオンライン栄養指導
江頭清美、野中文陽、秋吉響子、尾崎由里奈、山内栄理子、岩田将吾、尾崎美千恵、津渡俊和、竹島史直

3. 第61回日本糖尿病学会九州地方会（2023.12.1-2 熊本県熊本市）

高度腎機能障害合併2型糖尿病に対するチルゼパチドの使用経験
高木博人、村上達樹、野中文陽、竹島史直、西野友哉

4. 第61回日本糖尿病学会九州地方会（2023.12.1-2 熊本県熊本市）

NP（診療看護師）が周術期血糖管理で介入した低血糖を繰り返す緩徐進行1型糖尿病の症例
井原美亜、野中文陽、布施正樹、高木博人、竹島史直

5. 第38回臨床リウマチ学会（2023.11.17-18 北九州市）

専門医過疎地域における Mixed Reality（MR）技術を用いた次世代関節リウマチ遠隔医療
～Nagasaki University Rheumatoid Arthritis remote medical System（NURAS）～
野中文陽、川尻真也、竹島史直、前田隆浩、川上純

6. 第68回日本透析医学会学術集会・総会（2023.06.15-18 神戸国際会議場）

腎梗塞に対して血管内治療を行い、腎代替療法を離脱し得た一例
下河舞子、露木智久、高木博人、竹島史直、西野友哉

7. 第 29 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (2023.09.30-10.01 TOC 有明コンベンションホール)
離島の腹膜透析診療の普及・整備における約 3 年間の取り組み
高木博人、村上達樹、竹島史直、西野友哉
8. 第 58 回日本腎臓学会西部学術大会 (2023.11.6 岡山コンベンションセンター)
デュロキセチンの関与が考えられた抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)を発症した
1 例
村上達樹、高木博人、竹島史直、西野友哉
9. 第 59 回九州人工透析研究会・総会 (2024.11.26 別府国際コンベンションセンター)
疼痛管理に難渋し、重篤な経過を辿ったカルシフィラキシスの一例
齋藤健、高木博人、村上達樹、竹島史直、西野友哉
10. 第 59 回九州人工透析研究会・総会 (2023.11.26 別府国際コンベンションセンター)
治療経過で様々な有害事象を呈した透析患者の MRSA 化膿性関節炎の一例
森川明、高木博人、村上達樹、竹島史直、西野友哉
11. 日本内科学会第 344 回九州地方会 (2024. 01.27 九州大学百年記念講堂)
疼痛管理困難な単純帯状疱疹に伴う抗利尿ホルモン不適合分泌症候群に対して
トルバプタンを導入した 1 例
長谷川達郎、高木博人、村上達樹、竹島史直、西野友哉
12. 第 14 回日本血液学会九州地方会 (2024.3.9 福岡市)
Pola+R-CHP 療法の経過中に乳び腹水を認めた高悪性度 B 細胞リンパ腫
勝岡真一、今西大介、加藤丈晴、長置健司、竹島史直、大島孝一、宮崎泰司
13. 第 20 回日本消化管学会学術総会 (2024.2.9-11 那覇市)
消化管領域における ICT の活用／離島医療圏における遠隔診療／ローカル 5G を活用した
内視鏡診療の有用性
東郷政明、竹島史直、山口直之
14. 第 116 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (2023.11.24-25 那覇市)
胃癌術後に Cronkhite-Canada 症候群を発症した一例
宿輪尚孝、藤野亮太、石田智士、東郷政明、竹島史直

15. 第 121 回日本消化器病学会九州支部例会（2023.5.12-13 福岡市）
胆嚢十二指腸瘻による胆石イレウスの 1 例
藤野亮太、鋏塚磨呂、東郷政明、福島信良、竹島史直、古賀洋一、北島正親、井上啓爾
16. 第 109 回日本消化器病学会総会（2023.4.6-8 長崎市）
消化器疾患の遠隔医療の現状と課題／離島医療圏におけるローカル 5G を活用した内視鏡診療
竹島史直、東郷政明、山口直之
17. 第 109 回日本消化器病学会総会（2023.4.6-8 長崎市）
消化器疾患とサルコペニア・フレイル／クローン病におけるサルコペニアの頻度と
バイオマーカーに関する検討
山本浩之、竹島史直、中尾一彦
18. 第 45 回長崎県地域医療研究会（2023.10.14-15 長崎市）
五島中央病院における働き方改革の現状
竹島史直

2. 外 科

【論文】

1. 古賀洋一、北島 正親、井上 啓爾
周術期リスクの高い急性胆嚢炎として PTGBD を検討した胆嚢捻転症の 1 例
長崎医学会雑誌 98 巻 2 号 Page59-63 2023 年
2. 井上 知晃、福本 将之、古賀 洋一、北島 正親、井上 啓爾
横隔膜切開後食道裂孔ヘルニアと Petersen ヘルニアによる絞扼性腸閉塞の 1 例
日本臨床外科学会雑誌 84 巻 8 号 Page1238-1241 2023 年

【学会発表】

1. 第 75 回九州精神神経学会（2023.10.19 オンライン開催）
高度便秘に対し結腸切除術と継続した排便訓練を行った、精神病エピソードを伴う知的発達症の一例
古賀 公基、冠地 信和、大橋 愛子、田山 達之、熊崎 博一、今村 明、小澤 寛樹、谷保 康一、中野 健、小田 孝、古賀 洋一、北島 正親、井上 啓爾

2. 第 85 回日本臨床外科学会 2023.11.16 岡山
 消化管出血にて緊急手術を要した小腸 GIST の 1 例
 下河 舞子、古賀 洋一、北島 正親、井上 啓爾
3. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.4.27 グランドプリンスホテル新高輪
 腔鏡下胃全摘術後の横隔膜ヘルニアとピーターセンヘルニアにより絞扼性腸閉塞を来した一例
 井上 知晃、福本 将之、北島 正親、井上 啓爾

令和 5 年度 五島中央病院オープンカンファレンス 開催実績表

場所：長崎県五島中央病院 講義室

回	開催日	演 題	講 師	参加者数		
				院内	院外	計
第 148 回	2 月 27 日(火)	介護中のあるある症例 ～これってどうしたらいい?～	五島中央病院 診療看護師 井原 美亜 先生	28	35	63
第 149 回	3 月 26 日(火)	五島市の認知症初期集中支援事業	五島市長寿介護課 平野 乃利子 先生、 磯沖 美香 先生	18	22	40
計				46	57	103

令和5年 内科入院患者（令和5年1月～12月まで）（2028例）

（入院延べ総数、1患者1病名 主に新患紹介台帳・画像レポート・主治医に基づいて）

消化器（587例）		腸管ベーチェット	1	起立性低血圧症	1
食道癌	2	食道炎	1	腹腔動脈解離	1
胃癌	20	マロリーワイス症候群	1	腸骨動脈瘤	1
大腸癌	33	毛細血管拡張症 GAVE	4		
肝細胞癌	13	クロンカイトカナダ症候群	1	呼吸器（421例）	
肝・総胆管癌	9	直腸潰瘍	2	肺癌	125
膵臓癌	15	消化管アニサキス症	4	CO2 ナルコーシス	1
胆のう癌	3	直腸動静脈瘻	1	肺炎	75
胃粘膜下腫瘍	1	痔核	1	誤嚥性肺炎	58
消化管神経内分泌腫瘍	1	嘔吐症	2	レジオネラ肺炎	1
胃ポリープ	1	便秘	3	気管支炎	2
GIST	1	ミリッチ症候群	2	非結核性抗酸菌症	10
大腸ポリープ	118	膵のう胞	1	肺結核	12
急性肝炎	2	魚骨	1	新型コロナウイルス感染症	59
肝嚢胞	1	腹膜垂炎	1	マイコプラズマ肺炎	2
薬剤性肝障害	10	食欲不振	2	膿胸	4
アルコール性肝障害	8			肺化膿症	1
PBC	1	循環器（306例）		喘息	6
肝硬変	12	心不全	102	COPD 増悪	7
胃・食道静脈瘤	8	狭心症	53	間質性肺炎	33
肝膿瘍	6	急性心筋梗塞	34	特発性肺線維症	1
胆嚢炎	22	陳旧性心筋梗塞	14	好酸球性肺炎	1
胆管炎	25	A-V ブロック	5	過敏性肺炎	1
総胆管結石	80	ペーサー電池交換など	9	器質性肺炎	1
胆管狭窄	6	心房細動	10	気胸・縦隔気種	4
膵炎	19	SSS	9	サルコイドーシス	2
肝動脈瘤	1	PSVT	2	薬剤性肺障害	1
肝移植後	1	弁膜症	11	窒息	2
腸間膜脂肪織炎	1	心筋症	4	縦隔腫瘍	4
イレウス	20	高血圧性心筋症	3	胸膜中皮腫	4
消化管出血	26	無症候性心筋虚血	15	縦隔膿瘍	1
出血性消化性潰瘍	9	心外膜炎	1	咯血	2
腸炎	26	心内膜炎	1		
クローン病	5	大動脈瘤（解離性など）	6		
潰瘍性大腸炎	3	下肢動脈狭窄・閉塞	5	腎臓（189例）	
虚血性大腸炎	11	深部静脈血栓症	3	慢性腎不全	28
虫垂炎	8	上肢急性動脈閉塞症	1	ネフローゼ症候群	8
憩室出血	13	高血圧	4	腎盂腎炎	12
大腸憩室炎	14	心室頻拍	6	シャントトラブル	74
腸重積	1	QT 延長症候群	1	尿路感染	40
S 状結腸軸捻転	2	心アミロイドーシス	4	尿管結石	1

急性腎不全	6	脳動脈瘤	1	抗凝固薬による出血傾向	1
IgA 腎症	4	解離性障害	1	悪性症候群	1
膜性腎症	1	不安神経症	1	特発性血管性浮腫	1
ANCA 関連腎炎	4	舞蹈病	1	過鎮静	1
腎盂癌	1	本態性振戦	1	横紋筋融解症	3
CAPD 腹膜炎	8			突発性難聴	5
出血性膀胱炎	1	感染症 (64例)		喉頭浮腫	1
神経因性膀胱	1	発熱・不明熱	6	鼻出血	1
		敗血症	6	うっ滞性皮膚炎	1
血液 (122例)		ウイルス性脳炎	1	紫斑病	1
悪性リンパ腫	64	帯状疱疹	7	褥瘡	1
白血病	5	日本紅斑熱	1	足壊疽	1
ATL	12	ツツガムシ病	1	頭蓋骨骨折	1
多発性骨髄腫	7	インフルエンザ	1	股関節滑液包炎	1
MDS	12	溶連菌感染	1	舌癌	2
貧血	11	丹毒	1	甲状腺癌	1
好中球減少症	6	蜂窩織炎	8	前立腺癌	1
特発性血小板減少性紫斑病	3	扁桃炎	7	原発不明癌	5
メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患	1	喉頭蓋炎	3	縊頸	1
		副鼻腔炎	2		
代謝 (69例)		卵管周囲膿瘍	1		
糖尿病	28	腸腰筋膿瘍	2		
低血糖 (DM)	3	化膿性関節炎	1		
糖尿病性ケトアシドーシス	7	感冒	4		
高Na・低Na血症	13				
高K・低K血症	9	膠原病・内分泌 (10例)			
高Ca・低Ca血症	4	関節リウマチ	2		
低Mg血症	1	皮膚筋炎	1		
痛風	1	多発血管炎性肉芽腫症	1		
偽痛風	2	副腎不全	4		
肥満	1	バセドウ病	1		
		甲状腺機能低下症	1		
神経 (165例)					
脳梗塞	81	その他 (94例)			
TIA	7	薬物・農薬中毒	6		
脳出血	22	慢性アルコール中毒	1		
くも膜下出血	4	急性アルコール中毒	4		
硬膜下血腫	4	熱中症	1		
失神	5	低体温症	6		
てんかん・けいれん	14	脱水	5		
眩暈	13	溺水	3		
迷走神経反射	4	老衰	2		
顔面神経麻痺	2	廃用症候群	1		
頭痛	1	じんましん	3		
パーキンソン病	1	アナフィラキシーショック	7		
正常圧水頭症	1	薬疹	2		

報告：五島中央病院精神科・神経科 新来患者統計：令和5年

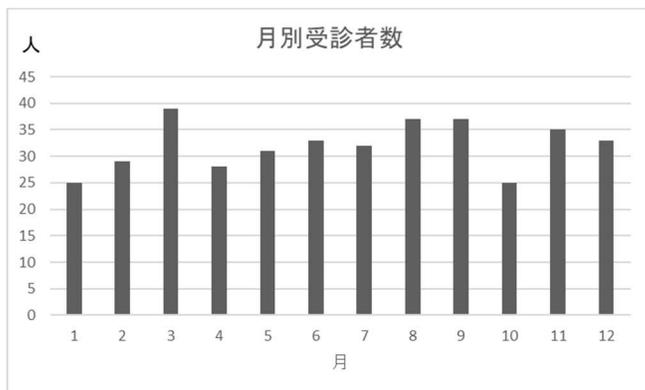
精神科・神経科 小田 孝

対象：令和5年1月1日から令和5年12月31日まで当科に新しく受診した患者

方法：カルテ記載に基づいた、年齢・性別・ICD-10に基づく精神科診断・住所・初診時入所施設・受診経路を調査

結果

1. 月別受診者数



2. 性別受診者数と初診時の年齢構成、平均年齢

	男 (人)	女性 (人)	合計 (人)
20歳未満	20	18	38
20～49歳	56	42	98
50～64歳	27	14	41
65～89歳	68	88	156
90歳以上	11	20	31
合計	182	182	364
平均(歳)	55.4	63.0	59.2
標準偏差(歳)	25.08	26.76	26.18

3. ICD-10に基づく精神科診断別受診者数

ICD-10/F	人	%
F0 症状を含む器質性精神障害	144	40.6
F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害	7	2.0
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	8	2.3
F3 気分障害	51	14.4
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	92	25.9
F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	9	2.5
F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害	3	0.8
F7 知的障害	11	3.1
F8 心理的発達障害	7	2.0
F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	9	2.5
G4 てんかん	3	0.8
診断保留	2	0.6
特に異常所見なし	9	2.5
小計	355	100.0
その他の診断		
正常圧水頭症	3	
ナルコレプシー	2	
資格のための健康診断	4	
小計	9	
合計	364	

4. 住所別受診者数

	人	%	令和2年人口	人口1万人対
旧福江市内	226	62.1	21885	103.3
富江町	28	7.7	4165	67.2
岐宿町	35	9.6	2947	118.8
五島市	28	7.7	2269	123.4
奈留町	14	3.8	1950	71.8
玉之浦町	15	4.1	1175	127.7
新上五島町	3	0.8	(国勢調査)	
長崎市	1	0.3		
上記除く長崎県内	3	0.8		
長崎県外	11	3.0		
合計	364	100.0		
* 五島市合計	346	95.1	34391	100.6

5. 初診時入所施設別受診者数

	人	%
なし	287	78.8
院内入院中*	53	14.6
グループホーム	11	3.0
特別養護老人ホーム	6	1.6
有料老人ホーム	2	0.5
養護老人ホーム	1	0.3
宅老所	1	0.3
養護施設	1	0.3
生活支援ハウス	1	0.3
島内の病院	1	0.3
合計	364	100.0

* 「院内入院中」の科別内訳

	人	%
院内内科	34	64.2
院内整形外科	13	24.5
院内外科	4	7.5
院内泌尿器科	2	3.8
合計	53	100.0

7. 小・中・高校生別受診者数

	学年	男性(人)	女性(人)	合計(人)
小学校				
	4		1	1
中学校	1	1	2	3
	2	1	2	3
	3	1	2	3
高等学校	1	6	2	8
	2	2	1	3
	3	3	2	5
	合計	14	12	26

6. 紹介経路別受診者数

	人	%
紹介なし	157	43.1
院内*	82	22.5
上五島病院・精神科	2	0.5
五島内開業医	44	12.1
五島内公立病院	10	2.7
長崎県内の公的病院・精神科	2	0.5
長崎県内の民間の精神科病院・医院	19	5.2
長崎県内の民間の他科病院・医院	2	0.5
県外の病院	16	4.4
特別養護老人ホーム	5	1.4
老人グループホーム	3	0.8
有料老人ホーム	2	0.5
養護老人ホーム	1	0.3
ケアマネージャー	7	1.9
若者サポートステーション	1	0.3
市役所福祉事務所	4	1.1
市役所長寿介護課	3	0.8
包括支援センター	2	0.5
五島保健所	1	0.3
長崎こども・女性・障害者センター	1	0.3
合計	364	100.0

* 院内からの紹介内訳

	人	%
内科	47	57.3
整形外科	14	17.1
物忘れ外来	6	7.3
外科	4	4.9
救急外来	3	3.7
泌尿器科	3	3.7
小児科	2	2.4
産婦人科	1	1.2
神経内科	1	1.2
脳神経外科	1	1.2
合計	82	100.0

令和5年度診療業務実績

1. 検査等件数実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
放射線	C T	4	559	589	546	604	583	612	573	600	614	562	540	557	6,939
		5	572	624	610	591	631	631	600	606	651	591	535	598	7,240
	M R I	4	240	226	251	244	251	228	232	253	252	233	232	257	2,899
		5	224	261	276	254	237	226	231	242	239	237	242	228	2,897
	心カテ	4	14	17	20	16	14	11	16	14	22	19	22	24	209
		5	15	11	22	9	18	13	8	14	8	13	15	9	155
ペースメーカー	4	1	0	3	4	0	5	1	6	4	2	3	0	29	
	5	3	1	3	3	1		2	4	1	2	3	0	23	
内視鏡	4	211	241	257	291	122	222	254	307	247	164	197	172	2,685	
	5	203	244	268	255	219	207	183	278	219	190	207	159	2,632	
栄養指導	入院	4	33	30	38	21	32	28	20	23	25	22	34	27	333
		5	24	17	26	20	32	23	27	13	23	14	38	22	279
	外来	4	46	50	58	66	59	51	61	58	77	63	46	71	706
		5	54	55	43	52	57	47	60	48	60	50	28	49	603
	計	4	79	80	96	87	91	79	81	81	102	85	80	98	1,039
		5	78	72	69	72	89	70	87	61	83	64	66	71	882
薬剤管理指導	4	177	162	173	188	192	174	192	225	162	194	244	239	2,322	
	5	194	231	238	269	221	194	222	220	200	260	272	254	2,775	
院外処方箋発行率(%)	4	90.7	91.2	91.8	89.9	87.8	91.9	91.2	91.6	91.2	91.9	92.1	92.9	91.2	
	5	92.7	93.0	92.7	93.0	92.9	93.4	93.3	93.9	92.8	93.7	93.5	93.6	93.2	
検査件数	入院	4	30,283	30,584	29,138	33,384	32,966	33,258	29,175	33,251	30,764	30,628	28,225	27,088	368,744
		5	27,776	30,948	30,826	30,572	33,568	34,612	34,241	30,425	30,981	34,330	31,811	34,093	384,183
	外来	4	73,583	77,585	82,802	83,465	81,334	81,248	79,056	78,260	82,291	76,211	74,014	78,164	948,013
		5	80,524	76,269	83,005	79,429	84,944	80,448	86,299	81,320	81,981	82,877	80,082	80,235	977,413
	計	4	103,866	108,169	111,940	116,849	114,300	114,506	108,231	111,511	113,055	106,839	102,239	105,252	1,316,757
		5	108,300	107,217	113,831	110,001	118,512	115,060	120,540	111,745	112,962	117,207	111,893	114,328	1,361,596
通院精神療法	4	1083	982	1073	978	1142	980	1052	1000	996	988	985	1062	12321	
	5	1035	1103	1054	1071	1079	947	1100	1045	1027	979	982	1026	12448	
入院精神療法	4	44	61	58	57	53	41	51	42	40	61	48	53	609	
	5	52	75	64	56	63	39	62	38	33	63	60	49	654	
人工腎臓	4h未満	4	88	72	98	96	92	88	83	97	95	71	87	84	1,051
		5	95	78	66	71	90	103	80	79	100	91	98	110	1,061
	4h～5h	4	227	239	238	242	266	242	235	249	267	252	248	254	2,959
		5	234	274	224	236	258	223	228	229	217	234	249	258	2,864
	5h以上	4	13	14	11	13	12	7	12	13	18	25	22	21	181
		5	17	21	23	14	19	15	13	14	17	21	20	27	221
外来化学療法	4	96	101	111	93	86	77	78	92	85	83	78	99	1,079	
	5	95	93	107	91	88	87	83	80	67	75	61	51	978	
COVID-19検査	4	906	723	674	930	1,363	754	699	706	971	585	586	641	9,538	
	5	618	191	130	243	409	289	146	358	382	424	273	241	3,704	

2. リハビリ単位数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳血管疾患等 リハビリテーション科	4	493	449	359	541	753	579	395	491	319	572	549	474	5,974
	5	468	532	322	425	338	427	416	356	456	425	351	508	5,024
運 動 器 リハビリテーション科	4	2,755	2,573	3,086	2,793	2,835	2,425	2,903	2,799	2,931	2,539	2,698	3,019	33,356
	5	2,525	2,476	3,028	2,410	2,579	2,818	2,853	2,756	2,505	2,892	3,154	3,046	33,042
呼 吸 器 リハビリテーション科	4	189	228	269	218	179	205	296	176	192	136	199	261	2,548
	5	222	182	187	142	234	248	255	251	404	363	326	349	3,163
廃用症候群 リハビリテーション科	4	699	782	617	675	606	508	436	537	522	460	632	456	6,930
	5	432	664	797	808	667	909	965	868	857	744	691	699	9,101
合 計	4	4,136	4,032	4,331	4,227	4,373	3,717	4,030	4,003	3,964	3,707	4,078	4,210	48,808
	5	3,647	3,854	4,334	3,785	3,818	4,402	4,489	4,231	4,222	4,424	4,522	4,602	50,330

3. エコー件数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	4	113	83	112	109	126	159	123	130	132	113	119	127	1,446
	5	108	109	129	132	125	108	121	115	109	125	120	115	1,416
循環器科（心エコー）	4	152	152	143	164	183	149	128	173	177	200	162	171	1,954
	5	166	203	210	173	174	174	181	132	162	176	134	142	2,027
人間ドック・健診	4	7	6	8	23	9	0	27	29	1	11	14	6	141
	5	5	7	14	23	26	19	27	31	24	15	9	5	205
小 児 科	4	2	2	6	4	4	9	2	5	18	5	6	2	65
	5	3	1	3	1	4	5	6	4	2	3	6	6	44
外 科	4	36	26	27	20	28	31	40	23	32	19	21	33	336
	5	32	33	29	28	35	32	62	27	31	39	27	33	408
産 婦 人 科	4	19	14	11	19	25	5	10	19	14	13	9	11	169
	5	9	12	20	17	16	9	12	28	22	24	12	22	203
妊 婦 健 診	4	150	130	168	184	133	108	118	131	127	134	115	126	1,624
	5	110	98	114	105	115	131	142	109	116	137	104	114	1,395
耳 鼻 咽 喉 科	4	7	11	11	13	10	14	15	6	13	13	13	13	139
	5	7	3	12	21	10	15	14	10	13	14	19	17	155
泌 尿 器 科	4	24	29	39	31	52	9	44	40	37	25	40	14	384
	5	90	52	74	69	64	63	64	63	60	55	66	53	773
計	4	510	453	525	567	570	484	507	556	551	533	499	503	6,258
	5	530	518	605	569	569	556	629	519	539	588	497	507	6,626

4. 加算等件数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療安全対策加算	4	251	248	228	320	302	301	290	271	279	286	270	295	3,341
	5	283	276	297	282	298	276	276	277	254	303	277	284	3,383
医師事務作業補助体制加算	4	276	269	250	304	285	298	288	259	264	265	257	275	3,290
	5	270	252	285	268	276	264	266	262	245	296	270	272	3,226
検体検査管理加算2	4	301	280	260	301	306	289	266	284	288	251	274	259	3,359
	5	252	302	285	275	314	280	302	285	283	299	306	321	3,504
検体検査管理加算1	4	2,865	2,803	2,954	3,099	3,305	2,863	2,929	2,854	3,037	2,680	2,613	2,757	34,759
	5	2,813	2,564	2,789	2,646	2,831	2,714	2,776	2,789	2,848	2,743	2,686	2,679	32,878
外来迅速検体検査加算	4	5,700	5,833	6,195	6,069	6,050	6,498	6,119	5,893	6,516	5,953	5,568	6,288	72,682
	5	6,393	5,993	6,162	6,314	6,885	6,316	7,207	6,852	7,108	7,062	6,845	7,019	80,156
画像診断管理加算2	4	672	692	685	726	691	694	661	699	699	660	652	676	8,207
	5	650	739	752	681	738	708	708	697	733	698	651	680	8,435
画像診断管理加算1	4	35	35	42	56	42	47	94	67	48	39	50	54	609
	5	30	48	48	77	90	91	108	70	56	66	45	56	785
感染対策向上加算2	4	251	248	228	282	256	273	249	236	239	252	229	252	2,995
	5	239	242	264	250	271	242	249	240	220	261	244	251	2,973
急性期看護補助体制加算	4	2,113	2,125	2,038	2,256	2,218	2,302	2,133	2,114	2,001	1,984	1,967	1,994	25,245
	5	1,936	1,987	2,055	1,973	2,151	2,139	2,123	1,995	1,998	2,401	2,028	2,401	25,187
看護補助加算2	4	664	771	690	779	549	492	478	526	509	543	521	597	7,119
	5	620	737	719	779	613	563	593	596	838	825	763	732	8,378

各診療科別年間手術症例数

対象期間：令和5年1月1日～令和5年12月31日

内科手術件数 566件

分類	手術名	件数		
胸部	食道	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術 7件 内視鏡的食道粘膜切除術 0件		
	心・脈管	経皮的冠動脈形成術 12件 経皮的冠動脈ステント留置術 33件 体外ベースメーカー 7件 ベースメーカー移植術 15件 ベースメーカー交換術 8件 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 10件 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 2件 動脈塞栓除去術 0件 血管塞栓術 25件 小腸結腸内視鏡的止血術 13件 経皮的シャント拡張術・血栓除去術 89件		
腹部		気管支、胃、十二指腸、大腸、腎臓	内視鏡的大腸ポリープ切除 128件 内視鏡的大腸粘膜切除 3件 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 18件 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 1件 内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術 0件 内視鏡的消化管止血術 32件 内視鏡的食道及び胃内異物摘出術 7件 経皮的腎（腎盂）瘻造設術 3件	
		胆嚢、胆道、肝、膵管	内視鏡的乳頭切開術 41件 内視鏡的胆道ステント留置術 91件 内視鏡的胆道結石除去術 7件 経皮的胆管ドレナージ術 2件 経皮的肝膿瘍ドレナージ術 0件 経皮経肝胆管ステント挿入術 0件 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 4件 内視鏡的膵管ステント留置術 4件	
			空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	下部消化管ステント留置術 0件 内視鏡的結腸異物摘出術 0件 経皮的膿胸ドレナージ術 4件
				小計

眼科手術件数 426件

分類	手術名	件数	
眼	結膜	翼状片手術 4件 結膜下異物除去術 0件 結膜結石除去術 16件	
		眼瞼	マイボーム腺梗塞摘出術 1件 麦粒腫切開術 2件 眼窩内腫瘍摘出術（表在性） 3件 先天性鼻涙管閉塞開放術 0件 眼瞼内反症手術 2件
			ぶどう膜
	角膜、強膜		
	眼房、網膜		網膜光凝固術 30件
	水晶体、硝子体		硝子体茎頸鏡下離断術 22件 水晶体再建術 248件 硝子体切除術 3件 後発白内障手術 83件
		小計	426件

外科手術件数 303件

分類	手術名	件数				
胸部	乳腺	乳腺悪性腫瘍手術 15件 乳腺腫瘍摘出術 1件				
	心・脈管	胸	胸腔鏡下肺切除術 2件 胸腔鏡下試験切除術 1件 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 13件 胸腔鏡下膿胸腔搔爬術 3件			
静脈		抗悪性腫瘍静脈内持続注入用埋込型カテーテル設置 22件 中心静脈栄養用埋込型カテーテル設置 0件 下大静脈フィルター留置術 0件				
		リンパ管、リンパ節	リンパ節摘出術 7件 リンパ節群郭清術（腋窩） 1件			
			腹部	気管	気管切開術 2件 気管異物除去術（直達鏡による） 0件 気管支異物除去術（直達鏡による） 0件	
腹壁、ヘルニア		ヘルニア手術 20件 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 22件 腹腔鏡下ヘルニア手術 1件 腹壁瘻手術（腹腔に通ずるもの） 0件				
		腹膜		急性汎発性腹膜炎手術 4件		
		胃、十二指腸	胃腸吻合術（ブラウン吻合含む） 1件 腹腔鏡下胃切除術 4件 腹腔鏡下胃全摘術 0件 腹腔鏡下胃腸吻合術 3件 腹腔鏡下胃局所切除術 3件 胃切除術 1件 胃全摘術（悪性腫瘍） 2件 胃切開術 1件 胃縫合術 1件 噴門側胃切除術（悪性腫瘍切除術） 3件 胃瘻造設術 5件			
			胆嚢、胆道	胆嚢摘出術 9件 腹腔鏡下胆嚢摘出術 50件		
胆管、腸管				胆管切開結石摘出術（胆嚢摘出含まない） 1件 胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局する） 0件 腸閉塞症手術 7件 腸管癒着症手術 1件 胆嚢外瘻造設術 8件 腸間膜腫瘍摘出術（腸切除を伴わない） 0件 腸吻合術 0件 総胆管胃（腸）吻合術 1件 胆管切開結石摘出術 4件		
			空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸、その他	小腸切除術 4件 虫垂切除術 9件 結腸切除術 7件 腹腔鏡下小腸切除術 1件 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術 15件 腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術 0件 腹腔鏡下虫垂切除術 9件 腹腔鏡下脾摘出術 0件 限局性腹腔膿瘍手術 0件 経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術 11件 人工肛門造設術 3件 人工肛門形成術 0件 人工肛門閉鎖術 2件 脾摘出術 1件		
	直腸			直腸切除・切断術 1件 直腸脱手術 1件 腹腔鏡下直腸切除・切断術 6件 腹腔鏡下直腸脱手術 0件		
				肛門、その周辺	肛門周囲膿瘍切開術 3件 肛門形成手術 1件 肛門ポリープ切除術 0件 痔核手術 8件 痔瘻根治手術 2件 腹腔鏡下尿膜管摘出術 0件 腹腔鏡下肝膿瘍切開術 0件	
					肝	肝切除術 0件
					小計	303件

整形外科手術件数 372件

分 類	手 術 名	件 数		
筋骨格系 ・四肢・体幹	筋膜、筋、 腱、腱鞘	腱鞘切開術	10件	
		筋膜切開術	1件	
		アキレス腱断裂手術	1件	
		骨折経皮的鋼線刺入固定術	2件	
	四肢骨	骨折観血の手術	124件	
		骨折非観血の整復術	30件	
		超音波骨折治療法	13件	
		骨内異物（挿入物）除去術	29件	
		手根管開放手術	11件	
		手、足、鎖骨	関節脱臼非観血の整復術	29件
		関節脱臼観血の整復術	5件	
		偽関節手術（鎖骨）	0件	
		ガングリオン摘出術（指・手）	1件	
	四肢関節、 靭帯	関節鏡下半月板切除術	7件	
		関節内骨折観血の手術	18件	
		人工骨頭挿入術	30件	
		人工関節置換術	35件	
		人工関節再置換術	1件	
		靭帯断裂縫合術	2件	
	四肢切断、 離断、再接合	四肢切断術	3件	
		断端形成術	3件	
	その他	骨移植術	1件	
		神経移行術	0件	
	神経系	抹消神経、 交感神経	直達牽引	1件
			一時的創外固定骨折治療術	9件
			神経剝離術（その他のもの）	2件
	小 計		372件	

産婦人科手術件数 52件（年間分娩件数 89 件）

分 類	手 術 名	件 数			
生殖器	子宮	子宮全摘術	7件		
		子宮脱手術	3件		
	外陰、会陰 腫	子宮頸管ポリープ切除術	8件		
		子宮付属器癌着剥離術（両側、腹腔鏡）	0件		
		子宮付属器悪性腫瘍手術	1件		
		子宮頸部摘出術	0件		
		腹腔鏡下腔式子宮全摘術	0件		
		バルトリン腺嚢胞腫瘍摘出術（造袋術含む）	0件		
		バルトリン腺腫瘍切開術	0件		
		その他	産科手術	帝王切開術	16件
				吸引娩出術	1件
				卵管結紮術	0件
	子宮付属器腫瘍摘出術			6件	
頸管裂創縫合術	2件				
流産手術	4件				
異所性妊娠手術（開腹）	1件				
腔壁形成手術	3件				
小 計		52件			

耳鼻いんこう科手術件数 32件

分 類	手 術 名	件 数	
耳鼻咽喉	外耳	外耳道異物除去術	3件
		中耳	鼓膜チューブ挿入術
		鼓膜切開術	5件
	鼻	鼻腔粘膜焼灼術	15件
	咽頭、扁桃	咽頭異物摘出術	5件
小 計		32件	

その他

分 類	手 術 名	件 数
	創傷処理	274件
	皮膚切開術	48件
	皮膚、皮下腫瘍摘出術	16件
	その他	28件
小 計		366件

泌尿器科手術件数 191件

分 類	手 術 名	件 数	
泌尿系・副腎	尿管、精巣	経尿道的尿管ステント留置術	116件
		その他	経尿道的尿管ステント除去術
		経尿道的尿路結石摘出術	0件
		経尿道的尿路結石除去術	1件
		経尿道的前立腺核出術	7件
		腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	0件
		精巣摘出術	0件
		包茎手術	5件
		外尿道腫瘍切除術	1件
		経尿道的電気凝固術	1件
		尿管皮膚瘻造設術	0件
		尿道狭窄内視鏡手術	0件
		経尿道的尿管狭窄拡張術	0件
		血管結紮術	0件
	膀胱	膀胱異物摘出術（経尿道的手術）	0件
		膀胱内凝血除去術	1件
		膀胱結石摘出術	1件
		膀胱脱手術	0件
		膀胱悪性腫瘍手術	14件
	心、脈管	動脈	内シャント設置術
その他		陰囊水腫手術	0件
小 計		191件	

救急患者搬送一覧

令和5年4月1日～令和5年3月31日

番号	月日	病名	移送先	移送方法
1	4月7日	脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
2	4月7日	扁桃周囲腫瘍	長崎大学病院	ドクターヘリ
3	4月10日	骨盤骨折	長崎大学病院	ドクターヘリ
4	4月10日	クモ膜下出血	長崎医療センター	海自ヘリ
5	4月10日	超急性期脳梗塞	長崎医療センター	海自ヘリ
6	4月20日	心不全	長崎大学病院	ドクターヘリ
7	4月21日	切迫早産	長崎大学病院	ドクターヘリ
8	4月24日	切迫早産	長崎大学病院	ドクターヘリ
9	4月26日	妊娠高血圧腎症	長崎医療センター	ドクターヘリ
10	5月2日	高位破水	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
11	5月8日	クモ膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
12	5月16日	心不全	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
13	5月19日	クモ膜下出血	長崎医療センター	県防災ヘリ
14	5月22日	急性硬膜下血腫	長崎医療センター	ドクターヘリ
15	5月25日	頸椎骨折	長崎大学病院	ドクターヘリ
16	5月25日	不安定狭心症	長崎大学病院	ドクターヘリ
17	6月8日	急性期多発脳梗塞	長崎医療センター	県防災ヘリ
18	6月9日	急性硬膜下血腫	長崎医療センター	ドクターヘリ
19	6月9日	脳室内出血	長崎医療センター	県防災ヘリ
20	6月20日	気道狭窄	長崎医療センター	海自ヘリ
21	6月23日	ウイルス性脳炎	長崎医療センター	ドクターヘリ
22	6月24日	不安定型骨盤輪骨折	長崎大学病院	ドクターヘリ
23	6月29日	マムシ咬傷	長崎医療センター	県防災ヘリ
24	7月4日	クモ膜下出血	長崎医療センター	県防災ヘリ
25	7月20日	脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
26	7月26日	クモ膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
27	8月3日	胸部大動脈瘤切迫破裂	長崎大学病院	ドクターヘリ
28	8月4日	左硬膜下血腫	長崎医療センター	県防災ヘリ
29	8月11日	クモ膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
30	8月15日	硬膜下血腫	長崎医療センター	県防災ヘリ
31	8月19日	急性動脈閉塞	福岡和白病院	ホワイトバード
32	8月26日	脳挫傷・脳出血・眼窩底骨折	長崎医療センター	海自ヘリ
33	9月3日	左慢性硬膜下血腫	長崎医療センター	県防災ヘリ
34	9月6日	左内頸動脈閉塞、脳梗塞	長崎大学病院	ドクターヘリ
35	9月11日	硬膜下血腫	長崎医療センター	県防災ヘリ
36	9月18日	急性大動脈解離	長崎大学病院	県防災ヘリ
37	9月19日	右上肢急性動脈閉塞	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
38	9月24日	新生児呼吸障害、先天性心疾患	長崎医療センター	ドクターヘリ
39	10月5日	StanfordA型大動脈解離	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
40	10月7日	穿孔性腹膜炎	長崎医療センター	ドクターヘリ
41	10月11日	心室細動	長崎大学病院	ドクターヘリ
42	10月20日	癒着胎盤、胎盤遺残	長崎大学病院	県防災ヘリ
43	10月25日	急性大動脈解離	長崎大学病院	ドクターヘリ
44	10月25日	咽頭癌、歯肉癌	長崎大学病院	ドクターヘリ
45	11月4日	右頸部膿瘍	長崎医療センター	ドクターヘリ
46	11月14日	鼻出血による出血性ショック	長崎大学病院	ドクターヘリ

47	11月19日	低ナトリウム血症 (SIADHの疑い)	長崎医療センター	ドクターヘリ
48	11月21日	うっ血性心不全	長崎大学病院	ドクターヘリ
49	11月21日	卵巣過剰刺激症候群	長崎大学病院	ドクターヘリ
50	11月27日	転移性脳腫瘍	長崎大学病院	ドクターヘリ
51	11月29日	穿孔性腹膜炎	長崎医療センター	ドクターヘリ
52	11月30日	超急性期脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
53	12月4日	前立腺癌	長崎医療センター	ドクターヘリ
54	12月13日	急性前壁心筋梗塞	長崎大学病院	ドクターヘリ
55	12月17日	小脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
56	1月4日	脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
57	1月11日	右閉鎖孔ヘルニア嵌頓	長崎医療センター	海自ヘリ
58	1月24日	脳梗塞	長崎医療センター	海自ヘリ
59	1月29日	左多発肋骨骨折、脾損傷、外傷性血気胸	長崎大学病院	ドクターヘリ
60	2月1日	穿孔性腹膜炎	長崎医療センター	海自ヘリ
61	2月6日	急性胆嚢炎	長崎医療センター	海自ヘリ
62	2月9日	感染性大動脈瘤	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
63	2月15日	腸管穿孔 (回盲部疑い)	長崎大学病院	海保船舶
64	2月16日	超急性期脳梗塞	長崎医療センター	県防災ヘリ
65	2月17日	妊娠34週、前期破水、COVID19陽性	長崎みなとメディカルセンター	ドクターヘリ
66	2月27日	胸部大動脈ステントグラフト感染	長崎大学病院	ドクターヘリ
67	3月4日	脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
68	3月14日	左卵巣腫瘍茎捻転	長崎大学病院	ドクターヘリ
69	3月18日	脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
70	3月23日	汎発性腹膜炎	長崎医療センター	海保船舶
71	3月29日	閉塞性黄疸	長崎大学病院	ドクターヘリ

令和5年度 抗菌薬（注射薬）及び消毒薬の年間使用概況

1. 全入院患者での使用状況について

2023年度（2023年4月～2024年3月）における抗菌薬使用量を1000患者日あたりの抗菌薬使用密度（antimicrobial use density：AUD）で集計し、抗菌薬の使用状況について前年度との比較を行った。



抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
① ABPC/SBT (スルバシリン)	110.5	145.0	+34.6
② PIPC/TAZ (タゾピベ)	31.9	34.8	+2.9
③ CEZ (セファゾリン)	24.4	26.3	+1.9
④ CTRX (セフトリアキソン)	17.9	16.6	-1.3
⑤ LVFX (レボフロキサシン)	4.9	10.3	+5.4

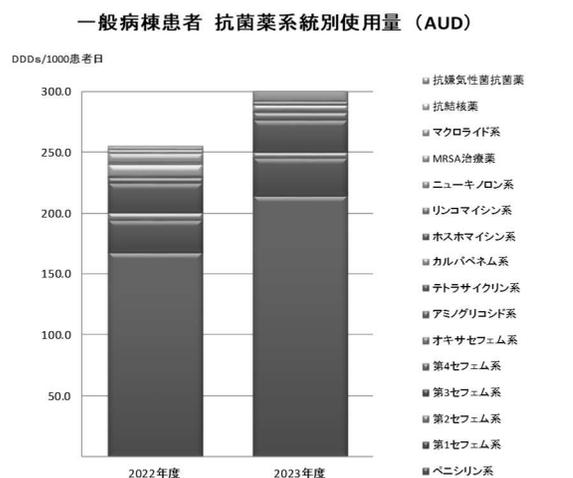
抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
① ペニシリン系	146.8	183.0	+36.2
② 第1セフェム系	24.4	26.3	+1.9
③ 第3セフェム系	21.6	22.1	+0.4
④ ニューキノロン系	6.9	20.9	+14.0
⑤ 第4セフェム系	3.8	5.5	+1.7

抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
① ペニシリン系	65.2%	67.6%	+2.3%
② 第1セフェム系	10.9%	9.7%	-1.1%
③ 第3セフェム系	9.6%	8.1%	-1.5%
④ ニューキノロン系	3.1%	7.7%	+4.6%
⑤ 第4セフェム系	1.7%	2.0%	+0.3%

全入院患者の年間 AUD は 270.9（前年比 +45.7）と増加していた。薬剤別 AUD ではスルバシリン注（前年比 +34.6）が最も多く、次いでタゾピベ、セファゾリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 +36.2）が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第3世代セフェム系の順となった。昨年度と比較し、ペニシリン系の使用量が伸び、カルバペネム系が大きく使用量を落とした。これはメロペネムの出荷制限が一因と考えられる。使用比率はペニシリン系 67.6%（前年比 +2.3%）、第1世代セフェム系 9.7%、第3世代セフェム系 8.1%となった。

2. 一般病棟患者での使用状況について

精神科患者を除く一般病棟患者の年間 AUD は 316.0（前年比 +61.2）だった。薬剤別 AUD や抗菌薬系統別 AUD、使用比率については全入院患者と同様の傾向であったが、AUD の値では全入院患者の場合よりも値が大きくなった。これは精神科患者では抗菌薬の使用頻度が少なく、一般病棟患者では抗菌薬の使用頻度が多いことを反映していると考えられる。



抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
① ABPC/SBT (スルバシリン)	125.7	169.8	+44.2
② PIPC/TAZ (タゾピベ)	36.4	41.1	+4.7
③ CEZ (セファゾリン)	28.0	31.1	+3.1
④ CTRX (セフトリアキソン)	20.5	19.6	-0.9
⑤ LVFX (レボフロキサシン)	5.6	11.5	+5.8

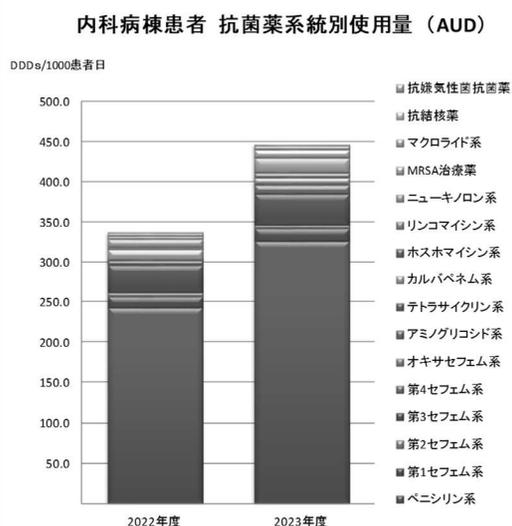
抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
① ペニシリン系	166.9	214.7	+47.8
② 第1セフェム系	28.0	31.1	+3.1
③ 第3セフェム系	24.8	26.0	+1.2
④ ニューキノロン系	7.9	13.1	+5.2
⑤ 第4セフェム系	4.3	6.5	+2.1

抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
① ペニシリン系	65.5%	68.0%	+2.4%
② 第1セフェム系	11.0%	9.8%	-1.1%
③ 第3セフェム系	9.7%	8.2%	-1.5%
④ ニューキノロン系	3.1%	4.1%	+1.0%
⑤ 第4セフェム系	1.7%	2.0%	+0.3%

3. 各診療科（入院患者）の使用状況について

A. 内科（入院患者）

内科の年間 AUD は 446.2（前年比 +109.2）と前年度から増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が 267.7（前年比+81.8）と昨年度同様最も高く、次いでタゾピペ注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比+83.3）が最も多く、次いで第3世代セフェム系、ニューキノロン系の順となった。使用比率はペニシリン系 73.1%（前年比+0.9%）、第3世代セフェム系 8.7%、ニューキノロン系 4.1%となった。



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ABPC/SBT (スルバシリン)	185.9	267.7	+81.8
②	PIPC/TAZ (タゾピペ)	52.2	57.3	+5.1
③	CTRX (セフトリアキソン)	29.9	30.3	+0.4
④	CEZ (セファゾリン)	14.5	16.0	+1.6
⑤	LVFX (レボフロキサシン)	7.3	15.3	+8.0

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

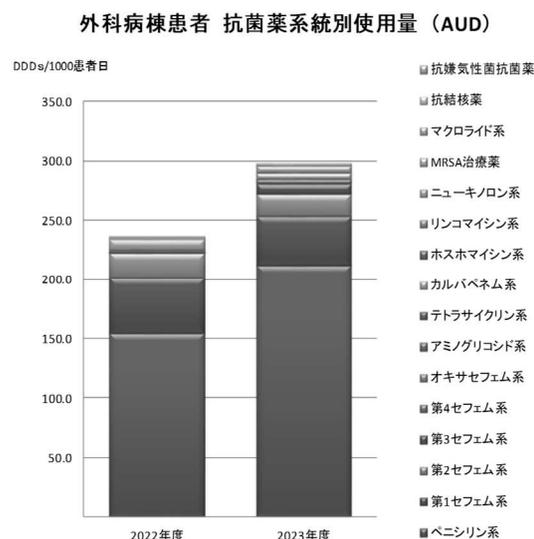
	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	242.7	326.0	+83.3
②	第3セフェム系	35.4	38.9	+3.5
③	ニューキノロン系	10.4	18.2	+7.8
④	第1セフェム系	14.5	16.0	+1.6
⑤	第4セフェム系	5.4	10.8	+5.4

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	72.1%	73.1%	+0.9%
②	第3セフェム系	10.5%	8.7%	-1.8%
③	ニューキノロン系	3.1%	4.1%	+1.0%
④	第1セフェム系	4.3%	3.6%	-0.7%
⑤	第4セフェム系	1.6%	2.4%	+0.8%

B. 外科（入院患者）

外科の年間 AUD は 298.1（前年比 +61.5）に増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が 130.9（前年比 +13.2）で最も多く、次いでタゾピペ注、セファゾリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 +57.7）が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第2世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系 71.0%（前年比+5.9%）、第1世代セフェム系 14.1%、第2世代セフェム系 6.3%となった。



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ABPC/SBT (スルバシリン)	117.6	130.9	+13.2
②	PIPC/TAZ (タゾピペ)	36.5	79.0	+42.5
③	CEZ (セファゾリン)	47.0	42.0	-5.0
④	CMZ (セフメタゾール)	20.0	16.1	-3.9
⑤	LVFX (レボフロキサシン)	5.2	6.0	+0.8

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	154.1	211.8	+57.7
②	第1セフェム系	47.0	42.0	-5.0
③	第2セフェム系	21.1	18.7	-2.4
④	第3セフェム系	1.4	8.1	+6.7
⑤	ニューキノロン系	9.6	6.0	-3.6

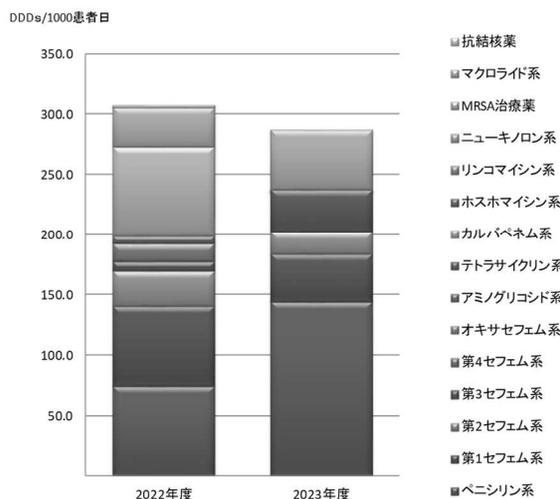
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	65.1%	71.0%	+5.9%
②	第1セフェム系	19.9%	14.1%	-5.8%
③	第2セフェム系	8.9%	6.3%	-2.6%
④	第3セフェム系	0.6%	2.7%	+2.1%
⑤	ニューキノロン系	4.1%	2.0%	-2.0%

C. 泌尿器科（入院患者）

泌尿器科の年間 AUD は 286.6（前年比 -20.9）に減少した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が 100.3（前年比 +65.1）で最も多く、次いでレボフロキサシン注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 +69.7）が最も多く、次いでニューキノロン系、第1セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系 50.1%（前年比 +26.1%）、ニューキノロン系 17.2%、第1世代系セフェム系 14.0%となった。

泌尿器科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ABPC/SBT (スルバシリン)	27.7	100.3	+72.6
②	LVFX (レボフロキサシン)	30.4	49.3	+18.9
③	CTRX (セフトリアキソン)	8.1	34.4	+26.4
④	ABPC (ピクシリン)	6.3	29.2	+23.0
⑤	CMZ(セフメタゾール)	2.5	18.8	+16.3

抗菌薬系統別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	74.0	143.7	+69.7
②	ニューキノロン系	32.6	49.3	+16.8
③	第1セフェム系	66.8	40.1	-26.6
④	第3セフェム系	8.1	34.7	+26.6
⑤	第2セフェム系	29.1	18.8	-10.3

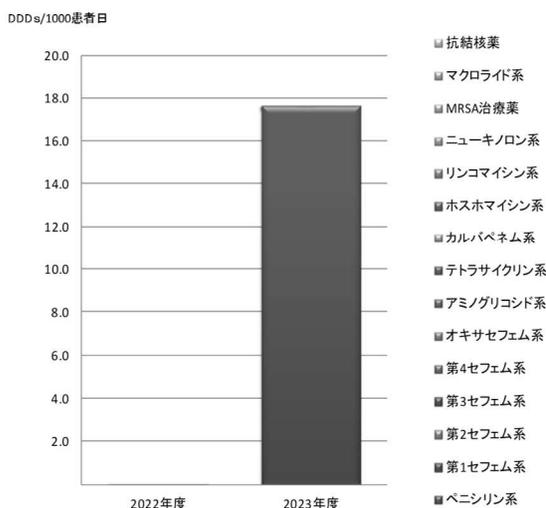
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	24.1%	50.1%	+26.1%
②	ニューキノロン系	10.6%	17.2%	+6.6%
③	第1セフェム系	21.7%	14.0%	-7.7%
④	第3セフェム系	2.6%	12.1%	+9.5%
⑤	第2セフェム系	9.5%	6.6%	-2.9%

D. 眼科（入院患者）

眼科の年間 AUD は 17.6 となった。薬剤別 AUD ではセフトリアキソン注 16.8、ワイスタール注 0.4、クラフォラン注 0.4 となった。抗菌薬系統別 AUD では第3世代セフェム系が 17.6 となった。使用比率は第3世代セフェム系 100.0%となった。

眼科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	CTRX (セフトリアキソン)		16.8	+16.8
②	SBT/CPZ (ワイスタール)		0.4	+0.4
③	CTX(クラフォラン)		0.4	+0.4
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	第3セフェム系		17.6	+17.6
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

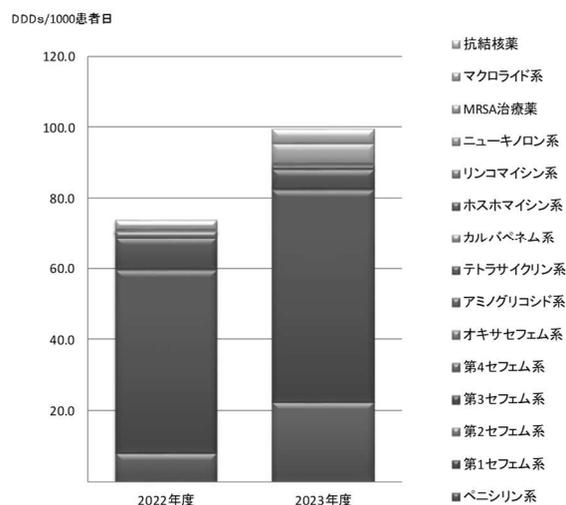
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	第3セフェム系	#DIV/0!	100.0%	#DIV/0!
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

E. 整形外科（入院患者）

整形外科の年間 AUD は 100.3（前年比+26.5）と増加した。薬剤別 AUD ではセファゾリン注が 60.1（前年比 +8.8）で最も多く、次いでスルバシリン注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD では第 1 世代セフェム系が最も多く、次いでペニシリン系、第 3 世代セフェム系の順となった。使用比率は第 1 世代セフェム系 59.9%（前年比 -9.6%）、ペニシリン系が 22.2%、第 3 世代セフェム系が 5.6%となった。

整形外科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	CEZ (セファゾリン)	51.3	60.1	+8.8
②	ABPC/SBT (スルバシリン)	4.9	16.9	+12.0
③	CTR (セフトリアキソン)	9.0	5.6	-3.4
④	LVFX (レボフロキサシン)	0.4	5.6	+5.2
⑤	PIPC/TAZ (タゾピベ)	3.3	5.4	+2.1

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	第1セフェム系	51.3	60.1	+8.8
②	ペニシリン系	8.2	22.3	+14.1
③	第3セフェム系	9.0	5.6	-3.4
④	ニューキノロン系	0.4	5.6	+5.2
⑤	MRSA治療薬	2.7	4.2	+1.5

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	第1セフェム系	69.5%	59.9%	-9.6%
②	ペニシリン系	11.1%	22.2%	+11.1%
③	第3セフェム系	12.2%	5.6%	-6.6%
④	ニューキノロン系	0.5%	5.6%	+5.0%
⑤	MRSA治療薬	3.7%	4.2%	+0.6%

F. 耳鼻咽喉科（入院患者）

耳鼻科の抗菌薬使用はなかった。

耳鼻科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

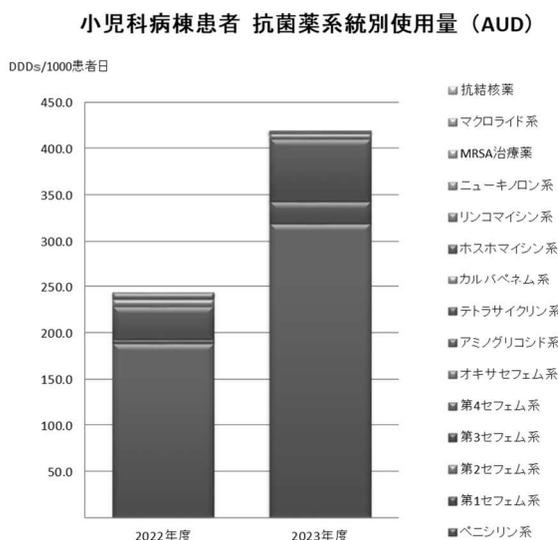
	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
②	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
③	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
④	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

G. 小児科（入院患者）

小児科の年間 AUD は 419.2（前年比 +176.0）と増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が 195.6（前年比 +88.2）で最も多く、次いでピクシリン注、クラフォラン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 +130.6）が最も多く、次いで第 3 世代セフェム系、第 1 世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系が 76.1%（前年比 -1.4%）、第 3 世代セフェム系が 15.0%、アミノグリコシド系が 5.8%となった。



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ABPC/SBT (スルバシリン)	107.4	195.6	+88.2
②	ABPC (ピクシリン)	78.4	98.9	+20.5
③	CTX(クラフォラン)	36.4	45.6	+9.2
④	CEZ (セファゾリン)	4.1	24.2	+20.1
⑤	PIPC/TAZ (タゾピベ)	1.7	23.3	+21.6

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

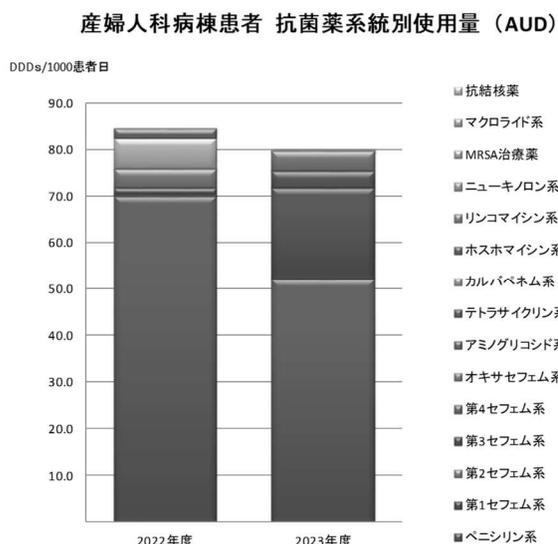
	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	188.5	319.1	+130.6
②	第3セフェム系	36.4	66.8	+30.4
③	第1セフェム系	4.1	24.2	+20.1
④	オキサセフェム系	7.1	6.0	-1.1
⑤	アミノグリコシド系	7.1	1.8	-5.4

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	77.5%	76.1%	-1.4%
②	第3セフェム系	15.0%	15.9%	+1.0%
③	第1セフェム系	1.7%	5.8%	+4.1%
④	オキサセフェム系	2.9%	1.4%	-1.5%
⑤	アミノグリコシド系	2.9%	0.4%	-2.5%

H. 産婦人科（入院患者）

産婦人科の年間 AUD は 79.9（前年比 -4.5）と減少した。薬剤別 AUD ではペントシリン注が 33.7（前年比 +5.8）で最も多く、次いでセファゾリン注、スルバシリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 -17.8）が最も多く、次いで第 1 世代セフェム系、第 4 世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系が 65.2%（前年比-17.6%）、第 1 世代セフェム系が 24.6%、第 1 世代セフェム系が 5.5%となった。



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	PIPC (ペントシリン)	27.9	33.7	+5.8
②	CEZ (セファゾリン)	0.5	19.7	+19.1
③	ABPC/SBT (スルバシリン)	35.3	18.2	-17.1
④	CFPM (マキシビーム)		4.4	+4.4
⑤	CTRX (セフトリアキソン)	1.0	3.6	+2.6

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	69.9	52.1	-17.8
②	第1セフェム系	0.5	19.7	+19.1
③	第4セフェム系	4.1	4.4	+0.3
④	第3セフェム系	1.4	3.6	+2.2
⑤	カルバペネム系	6.4	0.2	-6.2

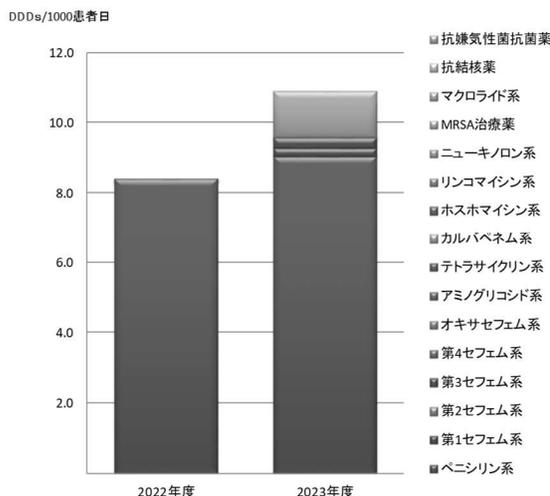
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	82.7%	65.2%	-17.6%
②	第1セフェム系	0.6%	24.6%	+24.0%
③	第4セフェム系	4.8%	5.5%	+0.6%
④	第3セフェム系	1.7%	4.6%	+2.9%
⑤	カルバペネム系	7.6%	0.2%	-7.3%

I. 精神科（入院患者）

精神科の年間 AUD は 10.9（前年比 +2.5）に増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が 9.0（前年比 +2.9）で最も多く、次いでレボフロキサシン注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系が 82.9%（前年比-17.1%）、ニューキノロン系が 12.2%、第3世代セフェム系が 2.8%となった。

精神科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ABPC/SBT (スルバシリン)	6.1	9.0	+2.9
②	LVFX (レボフロキサシン)		1.3	+1.3
③	CTRX (セフトリアキソン)		0.3	+0.3
④	CEZ (セファゾリン)		0.2	+0.2
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	8.4	9.0	+0.6
②	ニューキノロン系		1.3	+1.3
③	第3セフェム系		0.3	+0.3
④	第1セフェム系	#N/A	0.2	+0.2
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

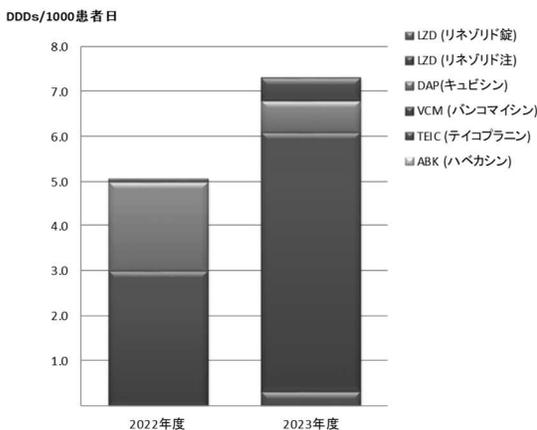
	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	ペニシリン系	100.0%	82.9%	-17.1%
②	ニューキノロン系	0.0%	12.2%	+12.2%
③	第3セフェム系	0.0%	2.8%	+2.8%
④	第1セフェム系	0.0%	2.2%	+2.2%
⑤	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

4. MRSA 治療薬の使用状況について

全入院患者における MRSA 治療薬の年間 AUD は 7.3（前年比+2.2）に増加した。薬剤別 AUD ではバンコマイシン注 5.8（前年比 +2.8）、キュビシン注 0.7（前年比 -1.3）、リネゾリド注 0.5（前年比 +0.4）となった。

バンコマイシン点眼液等、外用薬の抗 MRSA 薬の処方数はなかった。

全入院患者 MRSA治療薬使用量（AUD）



全入院患者薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	VCM (バンコマイシン)	3.0	5.8	+2.8
②	DAP(キュビシン)	2.0	0.7	-1.3
③	LZD (リネゾリド注)	0.1	0.5	+0.4
④	TEIC (テイコプラニン)		0.3	+0.3
⑤				

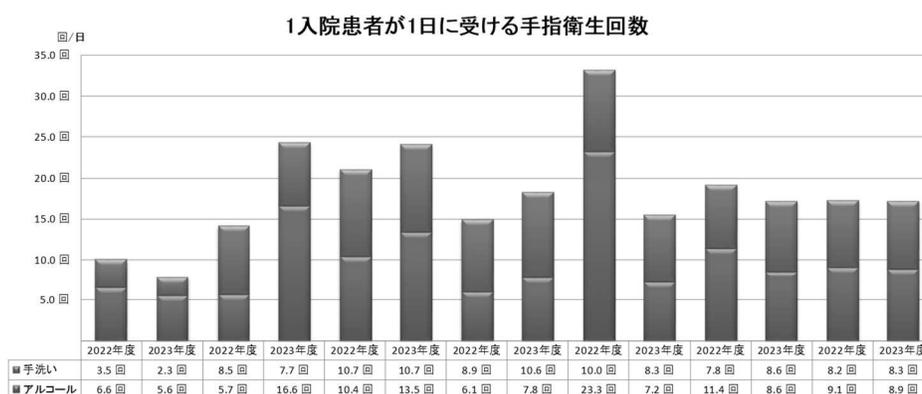
全入院患者抗MRSA外用薬使用本数(本)

	抗菌薬	2022年度	2023年度	前年比
①	バンコマイシン点眼液2.5%	0	0	±0
②	バクトロバン鼻腔用軟膏	0	0	±0

5. 消毒薬の使用状況について

アルコール手指消毒剤と液体石鹸の年間請求量を使用回数に換算し、これを患者在院日数で除して「1入院患者に関わる病院スタッフが1日に行う手指衛生回数」を算出した。請求量から算出した手指衛生回数（手洗い+アルコール消毒）は全病棟 17.2 回（前年度 17.3 回）、2 階病棟 7.8 回（前年度 10.1 回）、3 階南病棟 24.4 回（前年度 14.2 回）、4 階北病棟 24.2 回（前年度 21.1 回）、4 階南病棟 18.3 回（前年度 14.9 回）、5 階北病棟 15.5 回（前年度 33.3 回）、5 階南病棟 17.2 回（前年度 19.2 回）であった。5 北病棟は 2023 年 12 月まで、3 南病棟は 2024 年 1 月からの集計となっている。

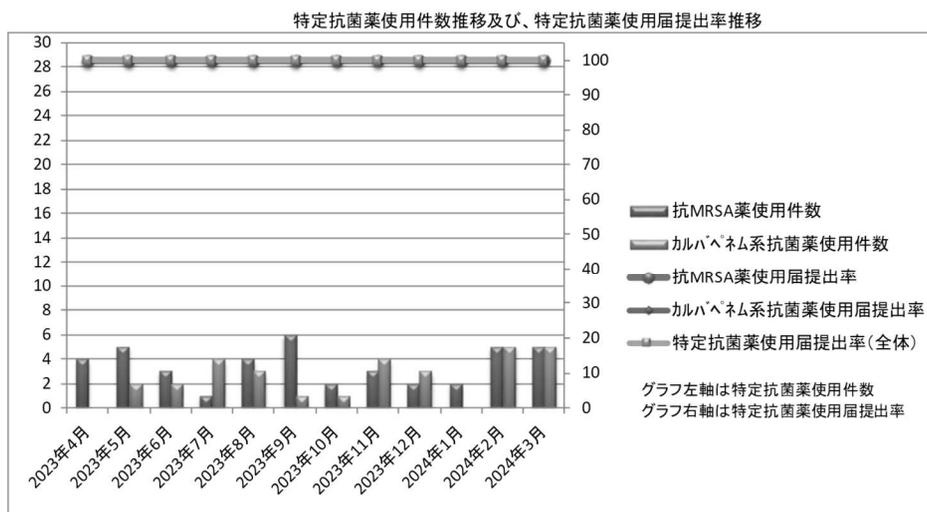
昨年度と比べ、全病棟の手指衛生回数は横ばいであった。病棟別にみると 2 階病棟、5 階病棟を除く病棟で手指衛生回数が増加といった状況であった。アルコールによる手指消毒回数をみると、3 南、4 階病棟で増加していた。アルコール製剤の手指消毒目標回数は 10 回/日なので、アルコール手指消毒剤での手指衛生回数の更なる増加が望まれる。



病棟	2階		3南		4北		4南		5北		5南		全病棟	
	2022年度	2023年度												
手洗い	3.5回	2.3回	8.5回	7.7回	10.7回	10.7回	8.9回	10.6回	10.0回	8.3回	7.8回	8.6回	8.2回	8.3回
アルコール	6.6回	5.6回	5.7回	16.6回	10.4回	13.5回	6.1回	7.8回	23.3回	7.2回	11.4回	8.6回	9.1回	8.9回
合計	10.1回	7.8回	14.2回	24.4回	21.1回	24.2回	14.9回	18.3回	33.3回	15.5回	19.2回	17.2回	17.3回	17.2回

6. 特定抗菌薬の使用状況について

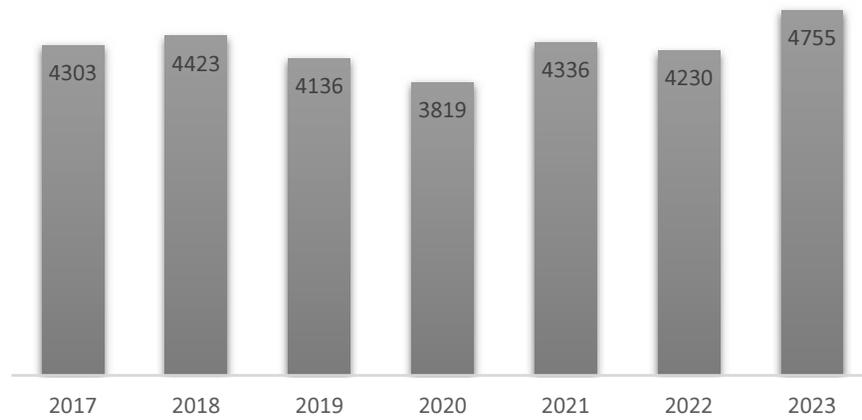
2023 年度の特定抗菌薬使用状況は年間の合計でカルバペネム系抗菌薬が 30 件（前年比-62 件）、抗 MRSA 薬 42 件（前年比+9 件）となった。月平均での使用件数はカルバペネム系抗菌薬が約 3 件（前年比-2 件）、抗 MRSA 薬が約 4 件（前年比+1 件）であった。又、特定抗菌薬使用届提出率は 100% を維持した。



当院の微生物検査の動向

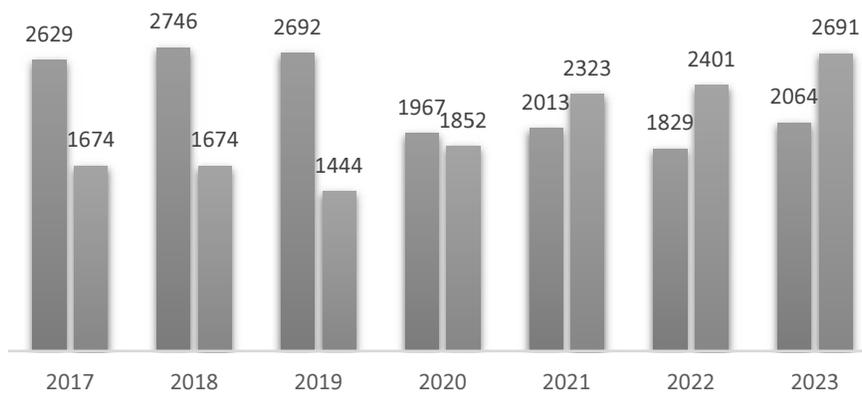
1.当院細菌検査年間検査検体数

検査検体数

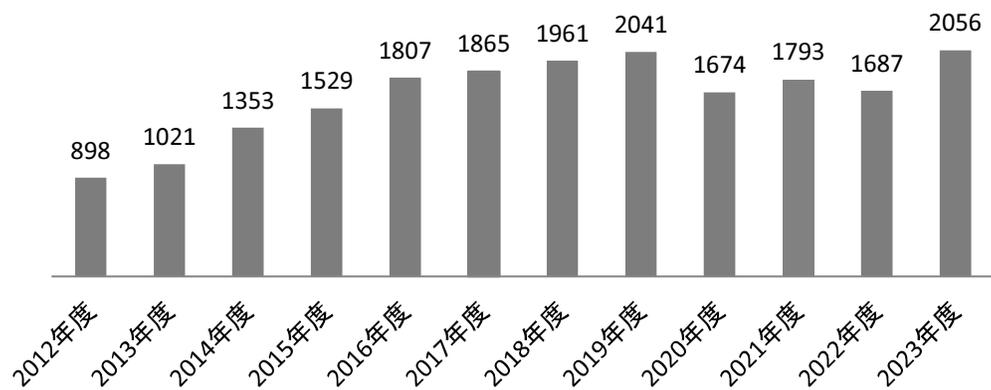


年度別検体数内訳

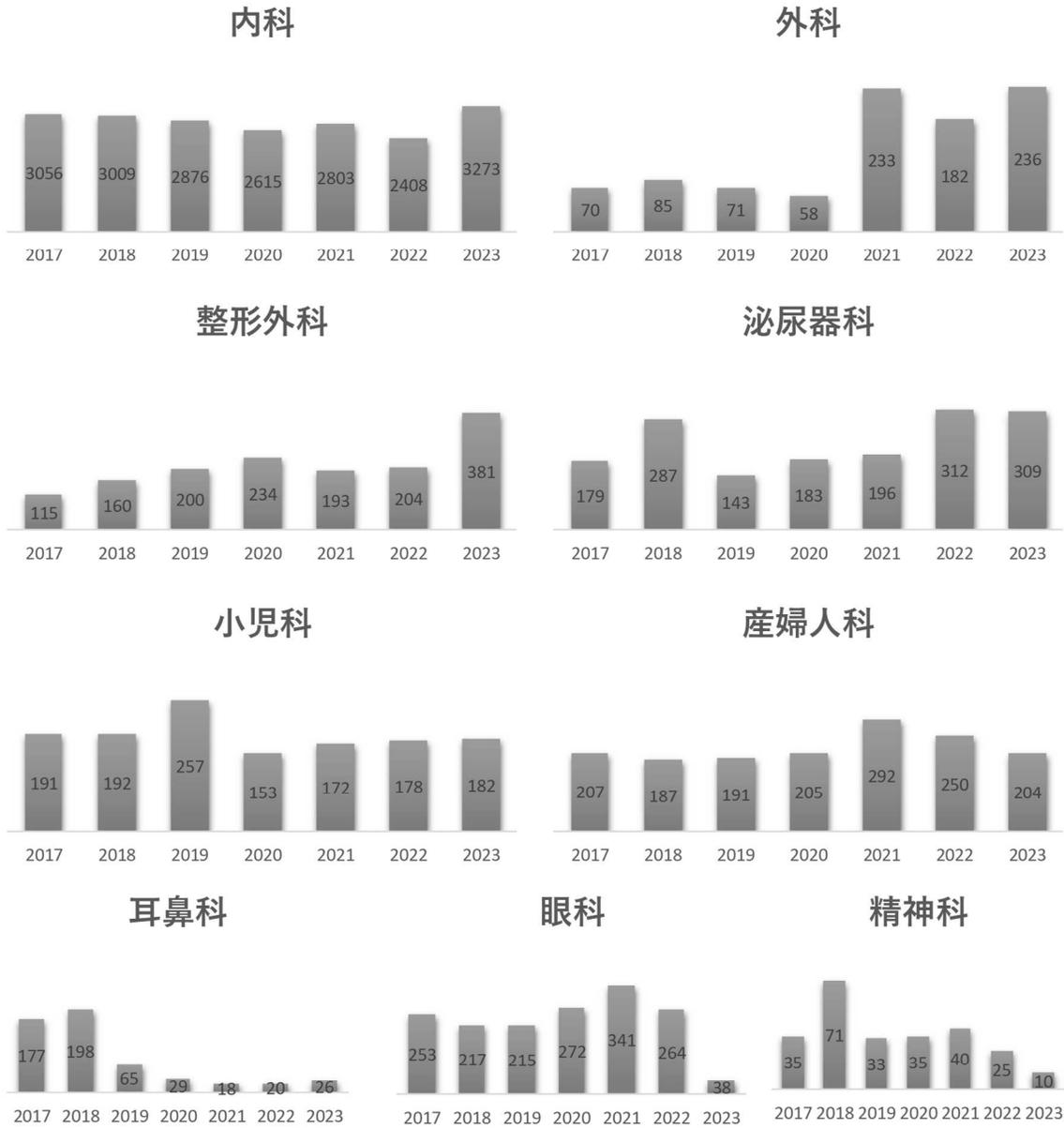
■入院 ■外来



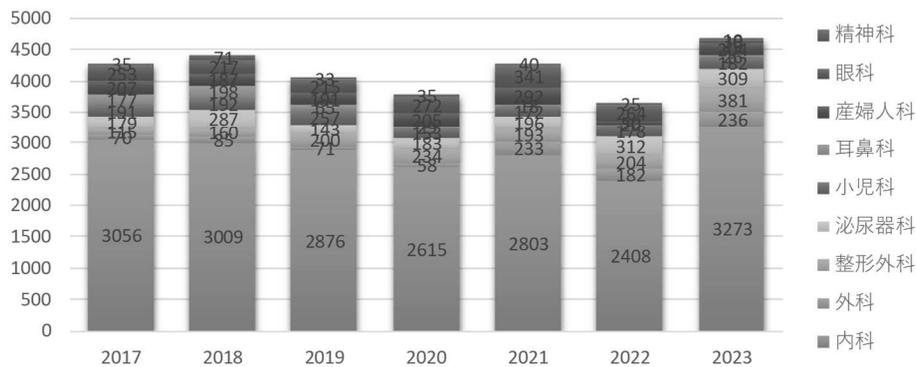
血液培養件数



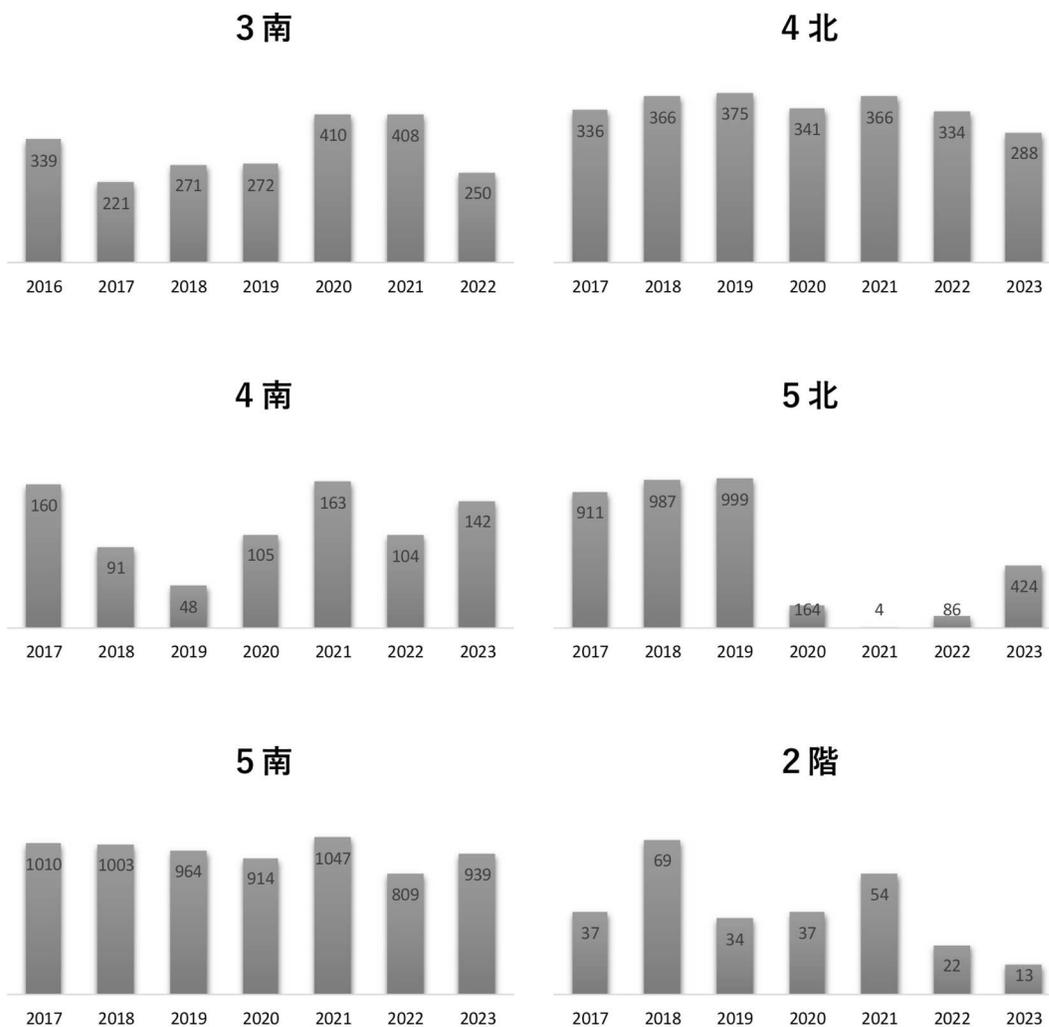
2.診療科別検体数



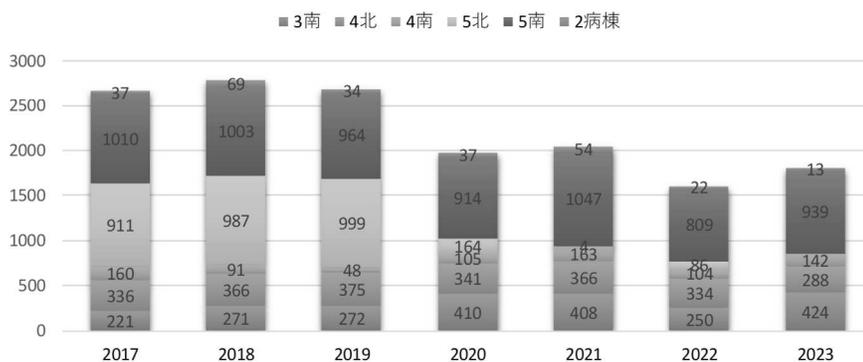
診療科別検体数



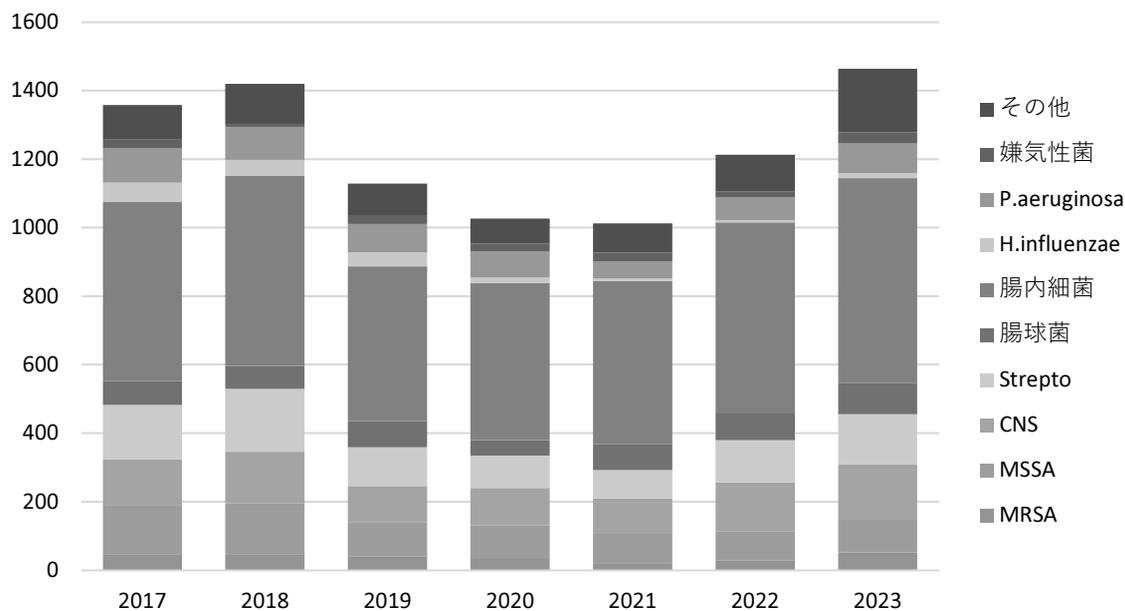
3.病棟別検体数



年度別検体数

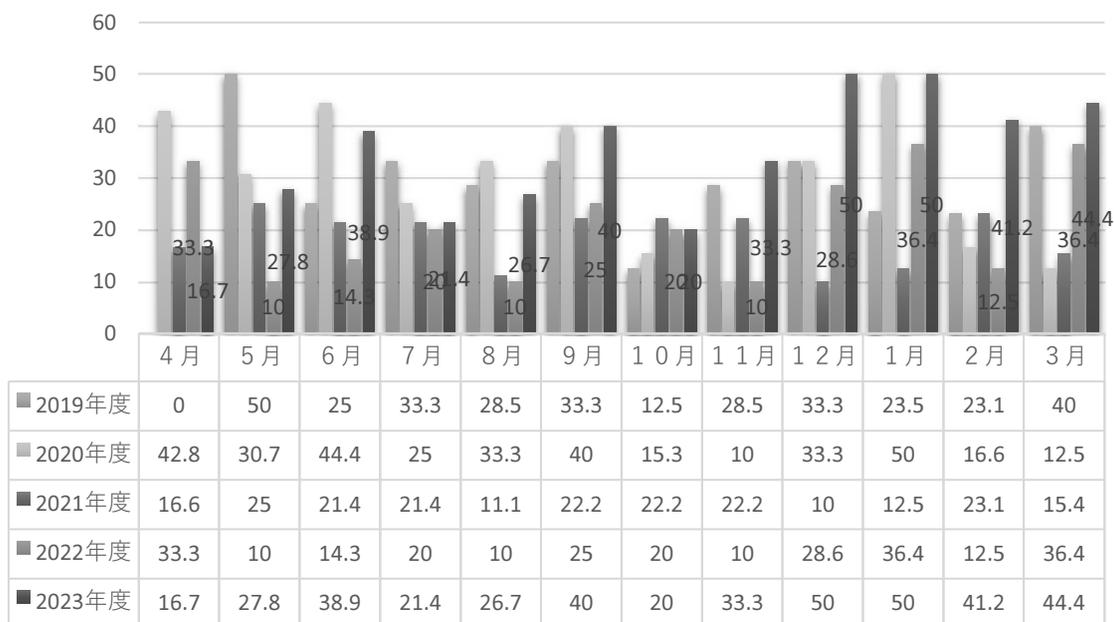


4.分離菌の年度別推移

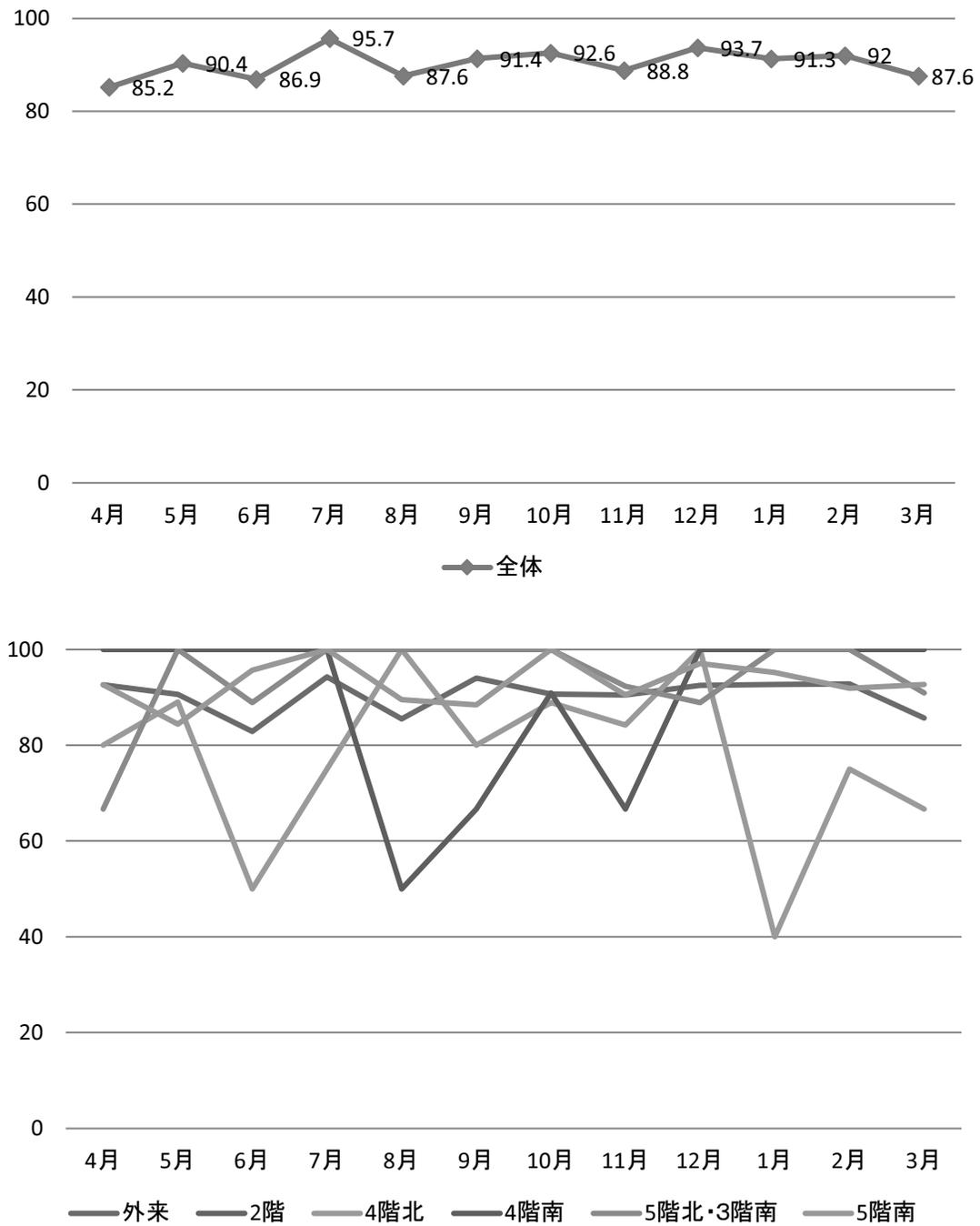


5.MRSA 数

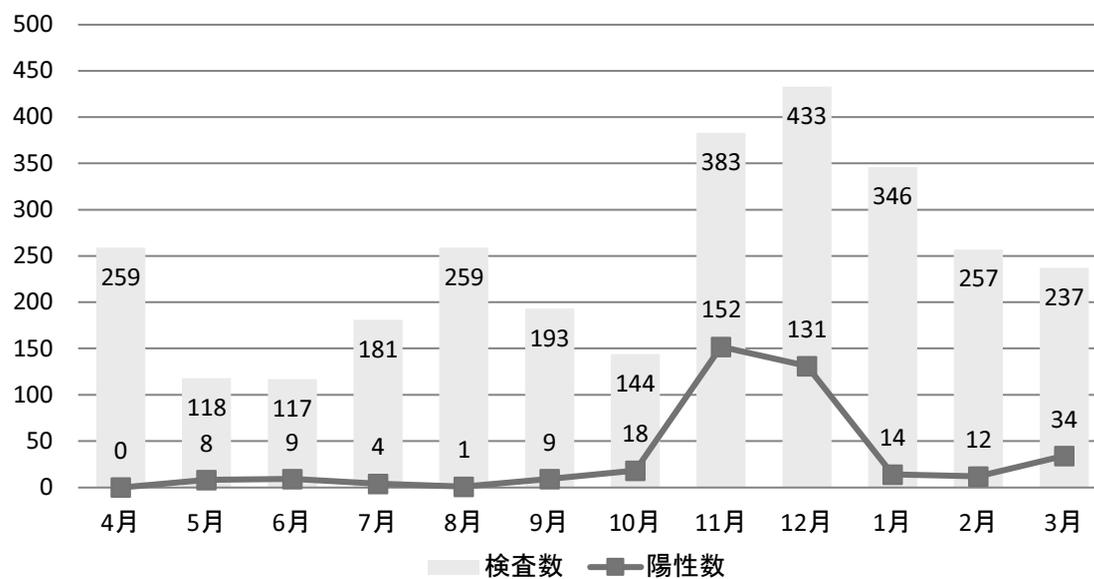
黄色ブドウ球菌(S.aureus)におけるMRSAの割合
MRSA%(MRSA/MRSA+MSSA)



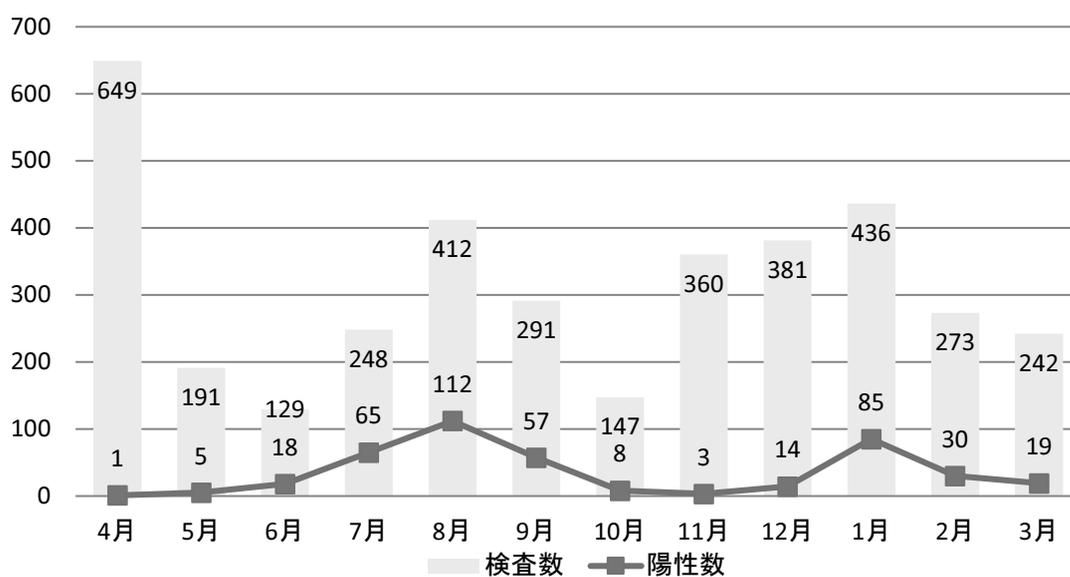
6.血培複数セット採取率



7.インフルエンザ



8.新型コロナウイルス



9.抗菌薬感受性率 (2023年4月～2024年3月)

グラム陰性桿菌																			
菌名	株数	ABPC	CEZ	CTM	CTX	CAZ	CFPM	CPDX-PR	CMZ	MEPM	ABPC/SBT	AMPC/CVA	PIPC/TAZ	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	
E.coli(全て)	296	67%	72%	82%	82%	87%	82%	78%	99%	100%	77%	90%	99%	93%	100%	95%	76%	76%	
E. coli	255	78%	84%	95%	95%	97%	95%	91%	99%	100%	82%	92%	99%	96%	100%	95%	87%	86%	
E. coli ESBL	41	0%	0%	2%	2%	24%	2%	0%	98%	100%	41%	76%	100%	78%	100%	90%	10%	10%	
K.pneumoniae	117	4%	92%	97%	97%	97%	98%	97%	97%	99%	85%	97%	99%	98%	99%	91%	99%	97%	
K.oxytoca	30	0%	21%	86%	90%	100%	93%	90%	100%	100%	79%	83%	83%	100%	100%	93%	100%	97%	
S. marcescens	10	10%	0%	0%	-	30%	80%	20%	80%	100%	0%	0%	80%	90%	100%	90%	100%	100%	
K. aerogenes	21	19%	0%	29%	90%	90%	95%	90%	19%	100%	57%	14%	86%	100%	100%	95%	100%	100%	
E. cloacae	24	21%	0%	8%	58%	63%	71%	33%	17%	100%	38%	4%	75%	92%	100%	83%	79%	79%	
P.mirabilis	39	95%	87%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	26%	97%	69%	
C. freundii	8	63%	13%	63%	75%	75%	100%	50%	63%	100%	75%	38%	100%	100%	100%	75%	100%	100%	

菌名	株数	PIPC	CAZ	CZOP	CFPM	IPM/CS	MEPM	DRPM	AZT	PIPC/TAZ	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	CL
P.aeruginosa	86	80%	83%	86%	83%	90%	93%	94%	74%	85%	70%	95%	-	93%	92%	-	93%
S. maltophilia	16	-	38%	7%	-	-	-	-	-	-	-	-	100%	75%	25%	88%	-
Ac.baumannii	11	67%	80%	83%	73%	100%	90%	-	-	-	82%	91%	91%	91%	91%	73%	83%

菌名	株数	ABPC	CTM	CTX	CTR	CFPM	CCL	CDTR-PI	MEPM	AMPC/CVA	ABPC/SBT	CAM	MINO	LVFX	CPFX	ST	RFP
H.influenzae	15	73%	80%	100%	100%	100%	80%	100%	100%	93%	73%	93%	100%	100%	100%	67%	100%
M. catarrhalis	7	43%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	71%	100%

■:感受性率0～50% ■:感受性率51～70%

グラム陽性球菌																	
菌名	株数	PCG	ABPC	ABPC/SBT	CEZ	GM	ABK	EM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	DAP	RFP	LZD	
S.aureus(全て)	147	30%	29%	59%	64%	83%	100%	48%	49%	99%	56%	100%	99%	100%	99%	100%	
MRSA	52	0%	0%	0%	0%	83%	100%	13%	13%	96%	17%	100%	98%	100%	98%	100%	
MSSA	95	46%	45%	92%	99%	83%	100%	67%	69%	100%	77%	100%	100%	100%	100%	100%	
E.faecalis	52	100%	100%	-	-	-	-	13%	-	23%	96%	100%	100%	100%	50%	98%	
E.faecium	19	16%	16%	-	-	-	-	10%	-	68%	5%	100%	100%	100%	11%	100%	
S.epidermidis	70	16%	16%	41%	41%	54%	-	51%	61%	90%	49%	100%	87%	100%	89%	100%	

グラム陽性レンサ球菌															
菌名	株数	ABPC	PCG	CTX	CTR	CFPM	CZOP	MEPM	EM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	AMPC/CV
S.pneumoniae	18	-	100%	71%	88%	82%	59%	76%	23%	23%	85%	-	88%	100%	94%
S. pyogenes	6	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-
S. agalact-Gp B	40	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	70%	70%	83%	71%	71%	100%	-

■:感受性率0～50% ■:感受性率51～70%

五島中央病院紀要投稿規定

1. 本誌は五島中央病院の機関誌として年1回発行とする。
2. 投稿者は当院の職員とする。但し当院職員以外の者であっても編集委員会の承諾を得た場合はこの限りではない。
3. 投稿論文は医学、薬学、看護学など医療に関係のある学術論文で、他誌に発表されていないものとする。
4. 本誌の内容は総説、研究、症例報告、学術年報（学会・研究会発表及び掲載論文：同年の1月～12月に発表～発行されたもの）、及びその他（随想など）とする。
5. 投稿原稿の採否並びに順位は編集委員会で決定する。
6. 原稿は和文、欧文を問わない。
7. 編集の都合により原文の要旨を変えない範囲内で著者に訂正を求めることがある。
8. 掲載料は無料とし別冊は著者に10部を贈呈する。それ以上の別冊は実費を徴収する。
9. 原稿執筆の要項は次のとおりとする。
 - (1) 原稿は別々の用紙を用いて次のように区分する。

タイトルページ、和文用紙（400字以内）、本文、文献、図（写真）及び表（いずれも手札型以上の大きさ）、図及び表の説明で構成し、要旨にはキーワード（5個以内）を入れる。
 - (2) 本文は原則として、1. はじめに、2. 方法（症例）、3. 結果、4. 考察、5. まとめの各項目に区分する。
 - (3) 原稿は横書き和文ワードプロセッサ（A4用紙20字×20行）で作成する。

その際、専門用語以外は当用漢字、年号は西暦、数字は算用数字、薬品名は一般名、現代仮名遣いを使用し、句読点を正しくつける。FDでの提出も受け付ける。
 - (4) 表はA4用紙に1頁1表ずつとする。
 - (5) 論文の長さは図表を含めて下記を限度とし、規定枚数を越えた原稿は採用しない。

総説：400字×30枚、研究：400字×25枚、症例：400字×20枚、その他：400字×20枚
 - (6) 文献は本文中に引用されたもののみを別紙に一括し、本文中の引用箇所引用順に肩番号をつける。

（例）神田¹⁾らの報告では・・・
 - (7) 文献の書き方は引用番号、著者名、題名、雑誌名、巻：頁（始頁～終頁）、発行年（西暦）の11頂で記載する。
 - (8) 単行本は引用番号、著者名、書名、（編集者名）、発行所名、発行年（西暦）、頁（始頁～終頁）、の順に記載する。
 - (9) 著者校正は1回のみとし、その際大幅な訂正は不可とする。
 - (10) 学会や研究会などで発表した論文を投稿される場合は、文末にその旨付記する。

原稿提出先：

〒853-0031 長崎県五島市吉久木町 205 番地 長崎県五島中央病院
五島中央病院紀要編集委員会
Tel：0959-72-3181
Fax：0959-72-2881

**五島中央病院紀要
第 26 号**

発行 令和 7 年 3 月 31 日

編集・発行 五島中央病院紀要編集委員会
〒853-0031
長崎県五島市吉久木町 205 番地
TEL: 0959-72-3181
FAX: 0959-72-2881

印刷 合同会社メディアウェブ
〒853-0017
長崎県五島市武家屋敷 1-5-35
TEL: 0959-74-1030

